

年報 12

平成 7 年度

1996. 3

山梨県埋蔵文化財センター

年報 12

平成 7 年度

1996. 3

山梨県埋蔵文化財センター

序

今年で14年目を迎えた当埋蔵文化財センターでは、これまでに発掘調査を行った遺跡が、220件を超え、刊行しました報告書も120冊にのぼるものとなりました。これらの内容は旧石器時代から近代に至るまでと幅広く、これまで未解決であった課題や本県の歴史の解明に大きく役立つものと信じております。発掘調査で得られた貴重な資料は「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」の開催、収蔵資料の貸し出し等により、県内は勿論のこと県外にも本県の歴史を理解していただくための啓蒙普及活動に活用され、その内容も年々充実したものとなっております。

本書は、1995年度に当埋蔵文化財センターが実施しました発掘調査および試掘調査・分布調査の概要と、遺跡調査発表会等の事業内容を報告するものであります。今年度は、22遺跡の発掘調査と13件の事業にかかる試掘調査を行いました。この中で、特に長坂町酒呑場遺跡から出土した豊富な資料の中に、縄文時代前期の鉢形土器に漆で描かれた幾何学模様が見られ、国内最古級のものであることや土器内面の彩色である点などで興味深いものとなっております。また、高根町海道前C遺跡で、縄文時代中期の完形に近い人面装飾付深鉢形土器が土坑内より逆位で出土したものは、きわめて貴重な資料であります。また、中部横断自動車道関連の十五所遺跡では弥生時代後期の方形周溝墓が9基確認され、隣接する村前東A遺跡では古墳時代前期の住居跡が合計100軒以上も確認されており、当遺跡が該期の大集落であったことが明らかになりました。甲府市の嵐山遺跡からは、古墳時代初頭の方形周溝墓からヒスイの勾玉や馬齒等の発見があり、川跡と見られる部分からは木製の人形2点が出土し、律令祭祀の一端が県内でも確認された点で注目されています。また、大月市御所遺跡の平安時代の住居跡から出土した石器に金粉と水銀朱が付着していることが明らかになり、アマルガム鍍金に係わる遺物として注目されています。また、県指定史跡甲府城の調査は6年目にはいり、大きな成果を上げております。このほか、県内の市町村が実施しました発掘調査においても興味深い遺構や遺物が発見されています。

阪神・淡路大震災によって被害を受けた兵庫県から要請されて、その復旧・復興対策に伴って行なう遺跡の発掘調査の支援に、小林健二文化財主事1名を6月1日から3月31日まで派遣（兵庫県教育委員会事務局技術職員兼務）いたしました。また外務省で主催する長期青年招聘事業による研修生を1名受け入れました。

ここ数年、県内においては年間100件にもおよぶ発掘調査が行われております。開発事業は依然としてその数を増加させ止まることを知りません。このような状況の中で得られた貴重な資料と引き替えに、多くの遺跡が失われて行くことを余儀なくされております。祖先の残した文化遺産のひとつである遺跡を、可能な限り守り未来につなげて行くのが私たちの責務であると確信しております。これらのためにも、本書を有効にご利用いただき、埋蔵文化財の保護をはじめ、啓蒙普及活動に一層のご協力とご理解をお願い致します。

1996年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

目 次

I 1995年度の事業概要

1 発掘調査	1
2 整理事業	1
3 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	2
4 調査研究課課内研究グループ	4
5 遺跡調査発表会	5
6 山梨の遺跡展'96	6
7 第7回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	6
8 調査研究課課内研修	7
9 長期青年招聘事業による研修生受け入れ	7

II 各遺跡の発掘調査概要

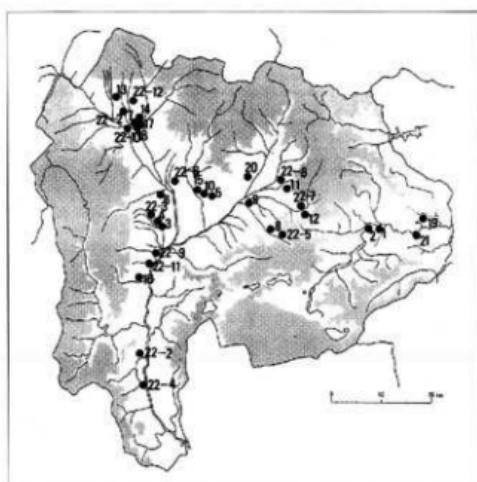
1 御所遺跡	8
2 大月遺跡（I、II区）	10
3 村前東A遺跡（IVa区）	12
4 十五所遺跡	14
5 甲府城跡（県指定史跡）	16
6 大塚遺跡	18
7 酒呑場遺跡	20
8 四ツ塚古墳群	22
9 「山梨県森林公園 金川の森」関連事業	24
10 塩部遺跡	26
11 一ノ坪遺跡	28
12 古婦毛遺跡	30
13 甲ヶ原遺跡	32
14 大明神遺跡	34
15 青羽遺跡	36
16 占堰遺跡	37
17 大林上遺跡	38
18 海道前C遺跡	40
19 談合坂遺跡	42
20 長峰寺遺跡	43
21 二ヶ所遺跡	45
22 塩瀬下原遺跡	46
23 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査	48
24 十五所遺跡試掘調査	54

III 県内の概況

1995年度発掘調査一覧表

55

例 言



1995年度発掘調査 位置図

職 員 組 織

所長	大塚 初重
次長	越阪 忠
総務課課長	越阪 忠
埋蔵文化財指導幹	森 和敏
調査研究第1課課長	森 和敏
調査研究第2課課長	田代 実

調査研究第1課第二担当

主査・文化財主事	小野 正文
副主査・文化財主事	大谷 淳水
文化財主事	村石 寛澄
文化財主事	小泉 敬
文化財主事	森原 明廣
文化財主事	保坂 和博
文化財主事	石神 孝子

調査研究第2課第五担当

副主査・文化財主事	長沢 宏昌
副主査・文化財主事	澤登 正仁
主任・文化財主事	高野 佳起
主任・文化財主事	吉岡 弘樹
文化財主事	小林 公治
文化財主事	笠原 みゆき

総務課	
副主査	遠藤 普
主事	矢崎 寛
主事	向山 美咲
文書事務員	有泉 百合恵
業務員	久保川 一三

調査研究第2課第三担当

主査・文化財主事	新津 健
主査・文化財主事	米田 明訓
副主査・文化財主事	中山 誠二
副主査・文化財主事	高野 政文
主任・文化財主事	佐野 和規
文化財主事	三田村 美彦
文化財主事	大庭 勝

調査研究第1課第一担当	
顧主幹・文化財主事	板木 美夫
主査・文化財主事	小林 広和
主任・文化財主事	山本 茂樹
主任・文化財主事	高野 玄明
主任・文化財主事	川手 昌美
文化財主事	熊谷 栄二
文化財主事	小林 健二
文化財主事	宮里 学

調査研究第2課第四担当

主査・文化財主事	八谷 順志夫
文化財主事	荻原 孝一
文化財主事	柏木 秀俊
文化財主事	田口 明子
文化財主事	野代 幸和
非常勤嘱託	村松 佳幸

滋賀県派遣

- 本書は、1995年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。
- 本書の編集は高野玄明と大庭勝がおこなった。
- 今年度の発掘調査一覧表及び資料の記載は3月末日現在で集計したものである。
- 第II章各遺跡の発掘調査概要の発掘調査面積の（　）内は調査対象面積である。
- 左記の地図は1995年度発掘調査遺跡の位置図である。なお地図中の番号は第I章1発掘調査の遺跡地名表に対応している。

I 1995年度の事業概要

1. 発掘調査

今年度は22遺跡の発掘調査と12事業に関わる試掘調査を行った。調査の原因は道路建設19、建物建設が6、団地建設が6、公園整備が4となる。調査は4月下旬から3月中旬まで行われ、主として12月以降を整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることとする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	御所遺跡	16	大林上遺跡	23-9	甲西バイパス試掘調査
2	大戸遺跡	17	高須前C遺跡	23-10	箕輪バイパス試掘調査
3	村前東A遺跡	18	古堀遺跡	23-11	富士川灘岸整備事業試掘調査
4	十五所遺跡	19	猿谷坂遺跡	23-12	須玉・八ヶ岳公園線試掘調査
5	甲府城	20	長峰皆遺跡	24	十五所遺跡試掘調査
6	大塚遺跡	21	三ヶ所遺跡		
7	酒呑翁遺跡	22	塙原下原遺跡		
8	西ノ原古墳群	23-1	高橋高試験地事業試掘調査		
9	「山梨県立森林公園 金川の森」関連事業	23-2	身延バイパス試掘調査		
10	塙部遺跡	23-3	駿中農業改良センター試掘調査		
11	一ノ坪遺跡	23-4	県立富沢団地試掘調査		
12	占締毛遺跡	23-5	御坂バイパス試掘調査		
13	甲ツ原遺跡	23-6	双葉島ヶ丘ニュータウン試掘調査		
14	人情神遺跡	23-7	勝沼町鶴坂分譲住宅地試掘調査		
15	青羽遺跡	23-8	塙山バイパス試掘調査		

2. 整理事業

今年度は下記の発掘調査に伴う整理作業と、報告書作成に伴う整理作業を行った。

番号	遺跡名	事業名	発掘年度
1	村前東A遺跡	中部横断自動車道	1994~1995年
2	十五所遺跡	中部横断自動車道	1994~1995年
3	中谷遺跡	リニア新実験線建設	1993年
4	九鬼遺跡	リニア新実験線建設	1993年
5	中溝遺跡	リニア新実験線建設	1993年
6	揚久保遺跡	リニア新実験線建設	1993年
7	外ガイド遺跡	リニア新実験線建設	1992年
8	菖蒲池遺跡	米倉山ニュータウン建設事業	1991年
9	西田遺跡	塙山警察署建設	1978年
10	唐松遺跡	宇津谷ニュータウン建設事業	1993~1994年
11	塙部遺跡	県立甲府工業高校建設	1995年
12	甲府城	舞鶴城公園整備事業	1993~1995年
13	甲ツ原遺跡	県道須玉・八ヶ岳公園線建設	1993~1994年
14	狐原遺跡	「山梨県森林公園 金川の森」関連事業	1993~1995年
15	大明神遺跡	富士川西郷広域農道建設	1993年
16	上野原遺跡	国道358号線拡幅事業	1994年

3. 収蔵資料の貸し出し及び掲載許可

今年度は以下の収蔵資料を貸し出した。

番号	貸 山 期 間	申 請 物 件 名	申 請 者	利 用 日 的
1	4.13~ 5.30	金牛遺跡出土中空土偶1点 〃 上飼1点 〃 上製耳墜5点 一の沢遺跡出土土偶1点 安道寺遺跡出土上飼1点 貨物跡層跡出土「鉢形製品」1点	石川県立歴史博物館	「真賀遺跡と舞文化」展に展示
2	7.10~ 9. 6	甲ツ原遺跡出土十鶴文土器1点 一の沢西遺跡出土十鶴文土器2点 安道寺遺跡出土土偶土器1点 〃 有孔飼付土器1点	名古屋市博物館	「夏休み親と子の歴史どうぶつえん」展に展示
3	9.12~10.27	平府城出土「城瓦」2点 〃 風神丸1点 〃 風神瓦復元品1点 〃 連蓋羽軒丸瓦2点 〃 連蓋羽鬼丸1点 〃 軒半瓦1点 〃 無り瓦3点 〃 石仏2点 〃 斧口1点 〃 石塔上落1点	浜松市立郷土博物館	「浜松城のイメージ」展に展示
4	11. 1~12.22	七の上の遺跡出土土器1点 横坪遺跡出土土器1点 甲ツ原遺跡出土土器1点 安道寺遺跡出土有孔飼付土器1点 かんかん塚古墳出土三環瓦1点	茨城県立歴史館	「昔の考古学・音貝と鳴器の世界」展に展示
5	7.1~12.22	金生遺跡出土石器3点 天神遺跡出土土器2点 丘の公園第2遺跡出土石器2点	山本 薫	緻密黒色安山岩製石器石材产地指定研究のため
6	9.11~11.24	犬神遺跡出土人頭1点 〃 有孔土器1点 一の沢西遺跡出土縄文土器6点 〃 有孔飼付土器1点 川又坂上遺跡出土土偶塑像11土器1点 金牛遺跡出土ミニチャート器2点 〃 中空土偶1点 金の尾遺跡出土大形石株1点 甲ツ原遺跡出土土器2点	福岡市博物館	「縄文～自然とともに生きた人々」展に展示
7	7. 3	桜井須遺跡出土土器2点	山梨県考古学協会	「平府市東部地域の歴史を考える」に展示
8	9.29~ 3. 下	殿林遺跡出土縄文土器1点	文化庁	「始祖と美・日本美術4000年の歴史を辿る」
9	10. 2~11.30	中谷遺跡出土縄文土器10点 〃 土偶復製品1点 金生遺跡出土縄文土器14点 〃 土偶2点 〃 耳墜20点 二光遺跡出土縄文土器複製品3点	佐賀県立歴史博物館	「縄文時代後編」展に展示
10	2. 4	駿瓦(復元)2点 成善瓦(復元)1点 軒瓦(復元)4点 甲府城出土瓦10点	国際ローカリークラブ	「甲府城発見と復活」に展示

今年度は以下の掲載許可申請があり許可した。

番号	申請日	申請物件名	申請者	利用目的
1	12.22	金生遺跡出土土器1点 金生遺跡出土中空土器1点 金生遺跡出土土製瓦飾り1点 一の沢西遺跡出土土器2点 安達寺遺跡出土土器1点	石川県立歴史博物館	「貴賤遺跡と萬文化」展示図録に掲載
2	5.30	一の沢西遺跡出土土器2点 戸ヶ原遺跡出土萬文土器1点 安達寺遺跡出土萬文土器1点 安達寺遺跡出土有孔附土器1点	名古屋市博物館	「夏休み親子のれきしどうぶつえん」 展示図録に掲載
3	5.31	甲府城址「丸瓦」1点 甲府城址「丸瓦」1点 石垣表面蓄胴木検出状況 甲府城三番胴木 甲府城三番胴木粗み方	新人物往来社	「古跡と写真で見る日本の城」に掲載
4	5.26	殿林遺跡出土萬文土器1点 西田遺跡住居跡化6点 漢帝國面額2点 土器圓面額3点 安達寺遺跡出土萬文土器2点	堺市	「堺市史」に掲載
5	6.27	上の平遺跡出土土器1点 柳畠家跡出土土器1点 平ノ原遺跡出土土器1点 安道寺遺跡出土有孔附土器1点 かんかん塗古墳出土三環鉢1点	茨城県立歴史館	「音の考古学」展示図録に掲載
6	7.11	天神遺跡出土ヒスイ大珠1点 一の沢西遺跡出土萬文土器6点 一の沢西遺跡出土有孔附土器1点 川又坂上遺跡附土器1点 天井遺跡出土有孔土器1点 金生遺跡出土ヒスイ土器2点 金生遺跡出土中空土器1点 甲ヶ原遺跡出土瓦1点 金の丸遺跡出土石块1点 金生遺跡配石1点	福岡市博物館	「九州外流史日麗文」展示図録に掲載
7	8.3	一の沢西遺跡出土土器2点	講談社	「歴史発掘第3巻関文の土偶」に掲載
8	8.16	糸子塚古墳出土壹形埴輪1点	広島県立歴史民俗資料館	「特急轟合とその古代」展示図録に掲載
9	9.22	米倉山B道跡出土貨幣	山梨中央銀行	企画資料館常設展パネル制作
10	9.27	大神遺跡出土ヒスイ大珠1点 金生遺跡出土玉飾・丸瓦1点	吉川弘文館	「日本の翡翠・その謎を探る」に掲載
11	9.29	金生遺跡配石1点 上の平遺跡方形瓦蓋基群1点 納子塚古墳全景1点	平凡社	「日本歴史大系19山梨県の地名」に掲載
12	7.29	甲府城松輪御松文忠義1点 甲府城内保竹園	平凡社	「日本歴史大系19山梨県の地名」に掲載
13	10.14	甲府城金箔瓦1点 甲府城金箔瓦1点	学習研究社	「歴史影像45番亞秀吉」に掲載
14	11. 9	小糸遺跡出土萬文1点	山本典幸	考古学雑誌論文に掲載
15	12.13	糸子塚古墳出土人物瓦馬鹿1点 かんかん塗古墳出土刀柄頭類1点 胡家原名塚出土裝身只1点	中道北小学校	「小学校社会科教科本」に掲載
16	1. 5	篠塚古墳出土壹形埴輪1点	講談社	「歴史発掘第9巻埴輪の世紀」に掲載
17	3. 1	西田遺跡出土萬文土器1点	堺市	「堺市史」に掲載

4. 調査研究課課内研究グループ

本年度は5部会を設定し、以下のような内容で毎月末日ごとに自主研究を行った。

縄文部会 縄文部会では、昨年度に引き続き県内出土の縄文土器の集成を行った。この作業は草創期から晩期までの“縄文土器絵引き”を作成することを目的としており、そのために報告書毎に縄文土器を時期分類しつつ集成を試みたものである。当センタ--刊行の報告書・紀要・年報掲載資料についてはすでに終了し、現在市町村刊行の報告書に就いて集成中である。集成の方針としてはできる限り完形品を収載することとしているが、県内の特徴として中期に資料が集中し、草創など完形品のない時期については破片資料でも掲載するようにした。近いうちに、県内担当者に配布できるものを作り上げる心積もりである。

古墳部会 県内の古墳に関する研究は先述の努力によって方向性が導き出されてきているが、分布状況やグレーピングなどについては総合的に検索できる資料はない。そこで、古墳部会では複数年をかけ県下の古墳を網羅するデータカードの作成を試みることとした。まず本年度は岡銚子塚古墳や竜塚古墳をはじめとして約100基あまりの存在が知られている八代町に地域を限定し、現地調査に主眼を置いていたデータ収集に力をいれた。しかし、現段階では当該地域の資料の蓄積量が不十分であるため、今後もデータカード作成に向けて引き続き現地調査を実施していきたい。

中・近世部会 当部会は「山梨における中世土器の考古学編年の確立」を研究テーマとし、昨年度から作業を進めている。平安末期を転換期とする中世上器の出現及びその後の展開は、中世考古学の上で重要な課題となっている。当部会は、報告されている資料の検討から始め、例会を重ねてきており、現段階は県内5地域に分け、地域差が著しい中世土器の形態や器種を確実に集成する作業を行っている。今後、中世土器の編年体系を確率し、提起できるように研究を進めていきたい。

考古教材研究部会 当部会が正式な課内研究グループとして認められてから2年目を迎える。本年度のメンバーは教員出身者や考古資料の普及活動に関心があるもの、合わせて12名である。私的自主研究会の時から「先生のための考古資料集」を作成してきたが、本年度はその第5集として、「教科書用語に対応した県内考古資料」というテーマで取り組んだ。これは、学校現場での活用のしやすさを考慮し、教科書の単元や用語に対応する県内考古資料を時代毎に並べ紹介するものである。そして、特に、今回は、普及活動の具現化として、県下の全公立学校に本資料集を無償配付することに決定した。

印刷技術工程研究部会 報告書等の印刷物の効率的作成およびその質的向上を目的に活動している本部会では今年度の研究課題として、「報告書作成に関わる諸プロセスの研究」を選択した。これは報告書等を作成する際の根本的な課題であり、印刷技術向上の前提としてマスターすべき課題として取り上げたものである。具体的には遺物実測の技法からコンピュータを用いた編集技法（DTP）に至るまでの各工程の研究発表をベースに討議を行った。また、年度末には研究発表内容を文章化し、『報告書印刷の手引き（応用編）』と称する冊子作りを行い成果の公表を試みた。

5. 遺跡調査発表会

当センターでは、県内で実施された遺跡調査の内容を一般県民に広く知っていただくため、山梨県考古学協会と共に年2回の遺跡調査発表会を実施している。例年のことく口頭発表以外にも出土遺物や写真などの展示もおこない、さらに下半期では新しい試みとして発掘調査の様子を撮影したビデオ上映もおこなった。以下、概要を述べておく。

1995年度上半期遺跡調査発表会（12月16日（土）於：山梨学院大学 約150名参加）

1. 下大内遺跡 明野村小笠原大内地内〔明野村教育委員会：佐野 隆〕

弥生時代前期の条痕文系壺形土器を埋納した十坑、平安時代の住居跡14軒（「延喜通宝」、「女」の墨書がある壺4個など出土）中世の十坑300基以上などが発見された。

2. 塩部遺跡 甲府市塩部二丁目〔当センター：村石眞澄〕26頁参照

3. 御所遺跡 大月市駒橋2丁目字仲下〔当センター：小林公治〕8頁参照

4. 西田町遺跡 一宮町竹原田・東原字西田町〔帝京大学山梨文化財研究所：鶴原功一〕

縄文・奈良・平安・鎌倉各時代の遺構・遺物を検出し、とくに鎌倉時代初期の12~13世紀を中心とする層敷跡（中国製の青磁・白磁など貴重品が出土）が明らかになった。

5. 甲府城関係遺跡 甲府市丸の内1丁目〔甲府市教育委員会：志村憲一〕

江戸時代の道路「御先手小路」、柳沢權太夫と萩沢氏の層敷境の溝と掘跡などが検出され、江戸時代の屋敷割りと変遷の様子が確認された。

1995年度下半期遺跡調査発表会（3月2日（土）於：県立甲府東高等学校 文化創造館「蒼龍館」 約100名参加）

1. 狐原遺跡 上野原町新田〔上野原教育委員会：小西直樹〕

縄文時代では奥壁に石柱・石壇施設をもつ住居跡、平安時代の住居跡6軒・掘立柱建物跡9棟などが発見された。

2. 酒呑場遺跡 長坂町長坂上条（酪農試験場内）〔当センター：野代和幸〕20頁参照

3. 勝沼氏館跡 勝沼町勝沼地内〔勝沼町教育委員会：宝伏 徹〕

東郭の調査により、大善寺境内を抜け水路を構築し、郭外のかなり広範囲まで地形平普請をおこない家臣・町屋を配置したことが明らかになった。

4. 大塚遺跡 八田村野牛島字人塚外〔当センター：高野政文〕18頁参照

5. 今宮遺跡 一宮町一の宮〔一宮町教育委員会：瀬田正明〕

古墳時代後期から奈良・平安時代にいたる27軒の住居跡や条里関連の溝が発見され、国分寺造営以前からの拠点的集落と考えられる。

上半・下半期の発表会を振り返ってみると、それぞれの発表者がわかりやすく話すことを意識していることが感じられた。しかしながら、発掘調査に関わったことがないごく一般の人たちへの広報という点からみると、なお一層理解しやすい発表のあり方を考えることが必要であろう。

6. 山梨の遺跡展 '96

この事業は昨年まで県立考古博物館との共催によって例年実施していたが、今年度から単独開催の実施を試みることになった。本年度においては、当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会によって発掘調査された遺跡の概要を説明し、その考古資料を公開展示することにより、県民の皆様に郷土山梨の歴史と埋蔵文化財について広く理解していただくことを目的とした。

考古博物館特別展示室を会場として、1996年3月16日（土）から4月7日（日）までの開催期間で以下のような内容で実施し、また入場料は無料とした。展示室全体の構成を六つに分けた計画で試み実施した。まず一般の方々に考古学の基礎的な作業である土器編年が理解されやすいように、遺跡から発掘された土器を、縄文時代から近世まで編年的に展示した。次に当センターで発掘調査された遺跡のうち、出土一括資料として時代の特徴をもっている遺跡六つについて資料紹介をした。さらに同じく当センターの調査遺跡の中から、パネル展示がより効果的なところ二箇所に遺跡を紹介してもらった。また昨年実験的に実施された「科学の日で見る考古学」を引き続き実施した。今年度のテーマは「遺跡から出土した動物遺体」であった。五つめは、県内市町村教育委員会で発掘された考古資料の展示で、今年度の一番大きな特徴であろう。貴重な資料を借りることができた市町村は、甲府市・御坂町・明野村・大泉村の4市町村であった。六つめは、新聞に掲載された埋蔵文化財関係の記事のパネル展示を実施した。その他遺跡の概要をコンピューターによってビデオ編集し紹介した遺跡もあった。今年度はこのように昨年度までと内容をかえて展示を試み、一般の方々の反応をアンケートで伺ってみた。

7. 第7回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

山梨県内の市町村埋蔵文化財専門職員の技術・知識向上を目的として、例年通りに山梨県埋蔵文化財センター主催の研修会を実施した。今回の研修は平成8年2月20日に風土記の丘研修センター講堂を会場に約30名の参加者を得て開催された。今回の研修テーマは「発掘調査報告書の効率的な作成についてコンピュータの活用をめぐって」と題し、講師には宮井英一氏（財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 資料普及課）をお迎えした。

研修テーマに発掘調査報告書の作成を選択した理由は、限られた時間・期限において報告書作成を強いられる状況下にある埋蔵文化財担当職員に対して、少しでも時間や労力を有効に生かすべくヒントを見いだしていくことにあった。当日はその期待を上回る内容の研修となり、発掘調査・整理・資料の管理・普及啓蒙活動にいたるまでの行程について、コンピュータの有効な活用方法を具体的な事例をもってご説明いただけた。研修内容は多岐に渡ったが、特に整理時における発掘データベースのカード化と、それらからの原稿化というコンピュータを用いた方法や写真資料の保管におけるCD-ROM化などには関心が高く、参加者からの質疑等も多く提示された。ハードウェア等の問題等もあるため急速な導入は困難ではあるが、先進地における最新技術を垣間見ることができたことは、今後の県内の埋蔵文化財業務の推進に必ず役立っていくものと確信できる研修会となつたと思われる。

8. 調査研究課課内研修

調査研究課では、課内研修で研修会及びグループ研究を行った。課内研修では、本年度は下記の実施内容で研修会を、グループ研究は別記の上のようなグループ研究を行った。

開催日	講演・発表テーマ及び講演発表者	概要
1 1995. 4. 28	一報告書の作成について 印刷技術研究会	報告書の作成を印刷のノウハウから考える。
2 1995. 5. 31	一バハレーン派遣の報告 森原明廣氏	バハレーンで行なった学術発掘調査
3 1995. 6. 30	一調査体制の整備充実に関して『山梨県埋蔵文化財センター』を考える。 新津 健氏	全国の調査体制の整備の中で山梨県埋蔵文化財センターを考える。
4 1995. 7. 31	一埋蔵文化財の写真撮影について 「写真の基礎知識」 遠藤 肖氏 「遺物写真の撮影」 村石真澄氏	写真の基礎から遺物の写真撮影まで
5 1995. 10. 31	一遺物・遺構支援システムの デモストレーション 平井 貢氏 普シング技術コンサル	コンピュータを使った遺物・遺構実測の現在
6 1996. 1. 31	カンボジアの文化と日本・アンコール・ワット アソコール・トムにみるカンボジア文化— Chhim Sokhandara (チム・ソカンダラ氏)	カンボジアの中世仏教文化
7 1996. 2. 29	一今年度グループ研究のまとめ 各課内研究グループ	各研究グループの今年度の反省と来年度の展望

9. 長期青年招聘事業による研修生受け入れ

外務省によって、毎年行われているアジア地域の(旧)社会主義国より青年文化人を長期間(約9ヶ月)招聘する事業に基づいて招かれた、カンボジア国立芸術大学2級講師のChhim Sokha ndara氏(26歳・男)を他の施設の協力の下に受け入れた。受け入れた期間は10月12日から3月8日までの約5ヶ月間である。彼の研修目的は「日本の文化・文化財保護、歴史教育について」である。なお、7月から10月11日までは外務省が日本語教育等を行った。

研修期間の当初に日本や山梨県の歴史・地理を教授し、10月23日から12月下旬まで甲府城発掘現地で、その調査や修復について研修した。ただし、12月中旬には2週間塩山市一ノ坪遺跡発掘現地でも調査の知識と技術を学んだ。1月から2月26日まで埋文センターで調査の整理について、1月29日から2月2日まで帝京大学山梨文化財研究所で、鉄器や木器などの保存処理技術を修得した。その後、2月中は考古博物館で土器作りや古文書学習を中心とする教育普及について研修した。この間、国立奈良文化財研究所をはじめとして、県内外の博物館施設や復元整備された遺跡などを広く見学した。研修期間中、特に病気や事故もなく、意欲的に興味をもって取り組み、所期の目的を達成したものと思われる。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 御所遺跡

所在地 大月市駒橋2丁目字仲下420,421-1

事業名 大月バイパス建設事業

調査期間 1995年5月8日～9月13日

調査面積 1,777m²

担当者 小林公治・高野佳起

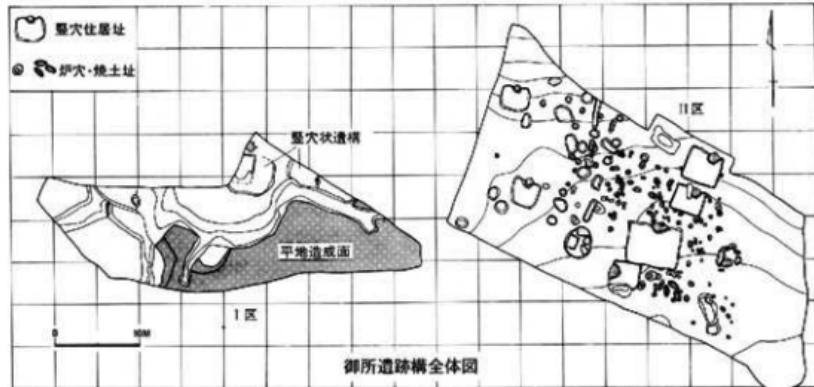


大月市御所遺跡の発掘調査は、建設省による
大月バイパス建設に先立ち実施されたものであ

る。本遺跡は、大月市街地の広がる桂川右岸のやや広い段丘面東端に位置し、北側は桂川の急崖を挟んで北西に岩殿山を望み、東側は清水入の沢と呼ばれる谷が深く入っている。さらに南側の崖線に沿って近世に開削された五ヶ堰用水が東西に流れている。こうした地形から、遺跡はさらに西側に向かって広がっていることが推測される。

調査は、農道を挟んでI区とII区の二地区に分けて実施した。I区では地山ローム層に達する掘削によって東側2/3ほどまで平坦面が造成されていた他、それに伴うような形で水路と思われる溝が確認された。この平坦面の機能については判然としないが、壁面セクションでは水田の底土と考えられる粘性の強い青灰色土壤や畝状の凹凸が観察され、水田造成面である可能性がある。その造成時期については伴う遺物が見つかっておらず不明だが、覆土中の出土遺物から近世以降と判断される。この平坦面造成による攪乱のためか、I区では他にはほとんど遺構・遺物が検出されていないが、北西隅から調査区外にかけて、平安時代の住居址2軒（1軒はカマドのみ調査）および繩文時代中期中葉の竪穴状遺構1基が確認された。

II区では平安時代の遺構として竪穴住居址6軒、土坑21基、ピット多数がある。住居址は、最大で6×5m、最小3.5×3mの大きさで、いずれも20度ほど東に偏してほぼ向きを揃えている。カ



マドは、1軒が西壁にあるほかはいずれも北壁に造られており、黄灰色粘土を主に用いている場合と、比較的大きな自然礫を袖芯として利用するものの2種に分けられるようである。また敷軒の住居では周溝も存在している。この他、まずしっかりと掘り方を掘り込み、その埋め戻し後ローム土を貼って床面を作っていることが特徴的な点である。土坑は多くが径1m前後で略円形のものであるが、長径が3mを超える橢円形のものや、長方形で長辺が1.5mほどのものも見られる。ピット群れは掘立柱建物などに並ぶものは確認できていない。

縄文時代の遺構と考えられるものには、炉穴9基、焼土址3ヶ所などがある。炉穴はおおむね長円形で深さ20~30cm程度、一部分が良く焼け厚く焼土層が形成され、覆土にも多量の焼土や炭化物が含まれている。また数基が一部にかたまって分布する傾向が強い。焼土址は掘り込みが無く、焼上面のみが確認できるもので、炉穴よりは散漫な分布傾向が見られる。この両者からは遺物がほとんど出土していない。

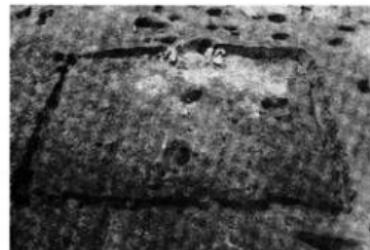
出土した遺物の量は、全体にさほど多くない。このうち平安時代の遺物は、住居址出土の土師器壺・甕類がほとんどであるが、出土壺類からこれら住居の年代は9世紀中葉から10世紀にかかる頃のものと考えられる。また、第9号住居址(SI-009)から出土した壺2点には「市」の字が刻書されている。加えて、同住居からは棒状礫の片端に赤色顔料および純金粉が付着した砂岩製石器が出土している。この道具の利用方法については、今後詳細な検討を行っていく必要があるが、現在のところ水銀アマルガムによる鍍金のための石杵(乳棒)であると判断している。この他、一部のカマドでは動物骨が灰・焼土中に含まれていることが確認されている。また縄文時代では、中期藤内式の土器を中心に若干量が出土している。



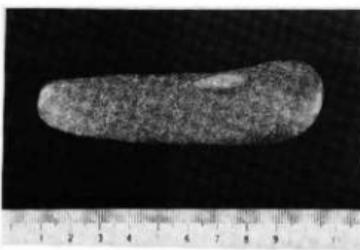
遺跡遠景（東から）



II区全景（西から）



第8号住居址



石 杵

2. 大月遺跡（第6次調査I・II区）

所在地 大月市大月2丁目11-20他
事業名 大月バイパス建設事業
調査期間 1995年9月25日～1996年1月19日
調査面積 963m²
担当者 小林公治・大谷満水・高野佳起

大月市大月遺跡の発掘調査は、御所遺跡と同様、建設省による大月バイパス建設に先立ち実施されたものである。大月遺跡の調査としては第6次調査となり、昨年度の都留高校体育館建設に伴う第5次調査地点の南西、大月保育園移転に伴う調査地点の南側にあたる。

本遺跡は笛子川と桂川の合流地点の南東およそ600m地点、現在大月市街地が広がる河岸段丘上の西隅に立地している。今年度の調査範囲は一部に擾乱が見られるものの、総体的には比較的良好な状態で埋没しており、上層から中世、古代、縄文時代の各面で遺構が確認できた。

中世面は、I区を中心に検出されている。土坑35基、溝4条、ピット群が確認されているが、遺物の出土量は少なく、一部の土坑覆土から大鏡通宝、永楽通宝といった渡来銭や、火打金などが出士している。一方、II区からはピットが数ヶ所確認された程度である。

平安時代ではI区で土坑およびピットが若干確認されるが、出土遺物量はかなり少ない。土坑はやや大形で円形のものや、長円形で底面中央に扁平な円窪を掘り付けたものなどが確認されている。遺物の出土分布はごく散漫であるが、一部地点に若干の偏りが見られる。一方、II区では今年度の調査範囲外へ統くため規模を決定できないが、2間×3間以上の掘立柱建物址が1棟検出されている他、明確な遺構とは認定できないものの、やや方向性の描ったピット群が確認された。この掘立柱建物址は柱痕掘り方が方形のもので、昨年度の第5次調査で検出された平安時代の掘立柱建物址とはほぼ同一の向きをとっている。

縄文時代では、第5次（都留高体育館）調査で中後期の遺構・遺物が共に多出したのとは対照的に、本地区では5期のものが圧倒的であった。遺構は、土坑とピット群以外に掘り込み持つものは確認されなかつたが、I区からはほぼ全面に縦数800個ほどの大形礫から構成される配石が確認されている。この配石は、近隣の河床面および背後の山から入手したと考えられる大形礫を相互に組み合わせて形成されている。その平面形態は、一部で明らかに直線的である他、全体的にみると二重の同心円状に並んでいるようにも見受けられる。遺物は、包含層が厚くかなり多量の土器類・石器類が全面から出土している。これらは土器類が堀之内期および加曾利B期の深鉢など、石器類は石皿や磨石・敲石類、礫石錘、黒曜石の剝片等である。また、やや特殊な遺物としては、大形の中空土偶脚部1点、ヒスイ製大珠、算盤玉状土製品やミニチュア土器などが出土している。なお、今次の調査は来年度以降に継続して実施する予定である。



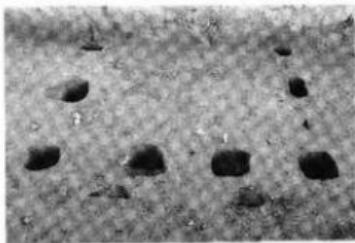
大月遺跡 位置図



I A区配石造構全条（東南から）



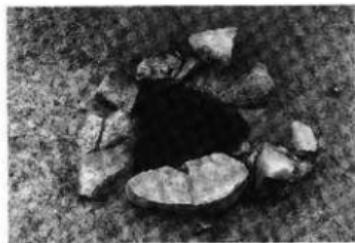
I A区中近世面全景



II 区据立柱建物址（西から）



II 区第18号土坑埋甕出土状況



II 区 石圓い炉（北から）

3. 村前東A遺跡 (IV a区)

所 在 地 中巨摩郡檜形町十五所字村前東297
外

事 業 名 中部横断自動車道建設（甲西バイパス）

調査期間 1995年4月10日～12月26日

調査面積 22,000m²

担 当 者 三田村美彦、佐野和規



村前東A遺跡 位置図

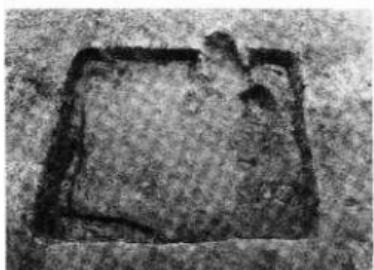
本遺跡は、甲府盆地西部の御動使川扇状地扇端部の南側に位置し、標高約280mに立地して

いる。調査は、1990年から開始され、4年次となる今年は、中部横断自動車道インターチェンジ建設予定地内（IV a区）を発掘した。本区では平安時代（1面）・古墳時代（2面）・弥生時代（3面）の文化層が確認された。以下、各時代毎に概観してみたい。

平安時代では住居址15軒・掘立柱建物址2棟・溝数条が検出された。住居址は一辺4×4m前後の方形プランとなるものが主体となり、竈は東壁に構築されるものが多い。掘立柱建物址は3×4・3×3間のものがある。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器・鉄製品等が出土しているが、その主体は土師器の壺・皿・甕である。

古墳時代では、前期に比定される住居址90軒・掘立柱建物址5棟・焼土址3基・ピット多数が検出された。住居址はその分布が、調査区の中心からやや北西寄りが密に、南下するほど疎になる傾向がみられる。プランは一辺4～6mの隅丸方形あるいは方形となるものが多いが、最小3×3mから最大11×9mを測るものまで、その規模は多様である。柱穴は4本主柱となるものが多いが、不明なものや6本主柱となるものがある。炉は地床炉で、浅い掘り込みに粘土を貼った所謂火皿をもつものや、縁辺の一部に横長の縁を配したり、粘土で堤を築くものが認められた。住居址入り口部のコーナー付近には、貯蔵穴と考えられる凸堤の巡るピットが検出されたものがある。掘立柱建物址は2×2間のものが多い。これら検出された遺構からは、壺・甕・ヒサゴ壺・高壺・器台などの土器のほか、僅かであるが鉄製品や砥石・蔽石様の石器が出土している。土器はいずれも3世紀中葉から4世紀に比定される古式土師器で、S字状口縁台付甕など非在地系の土器が多く出土している。なお、昨年度も当該期の住居址を36軒調査しており、今年度と合わせるとその数は120軒を越え、本遺跡が古墳時代前期には拠点的な集落として機能していたことを窺わせる。

弥生時代では、水田跡約30面と溝数条が検出された。水田跡は調査区の中央から北西寄りで確認され、短辺2m長辺3～10mを測る小区画水田となる。また、水口と考えられる施設も検出された。ただ、上記した古墳時代の住居址に切られていることや、畦畔と確認面の色調が近似しプラン確認が難航したため、その全体的な広がりや各水田面の規模に不明瞭な点が残る。



平安時代住居址（21号住居）



古墳時代住居址群



古墳時代掘立柱建物址



作業風景



村前東A遺跡IVa全景

4. 十五所遺跡

所在 地 中巨摩郡櫛形町十五所
事 業 名 中部横断自動車道建設（甲西バイパス）
調査期間 1994年4月18日～1995年12月27日
調査面積 約9,800平方メートル
担当 者 米田明訓、大庭勝

十五所遺跡は、甲府盆地西部を流れる御動使川扇状地の扇端部南側に位置している。標高は約290m付近に立地している。遺跡は扇端部に

形成されている北西から南東に向かってのびる挿るやかな傾斜地に立地している。本遺跡は甲西バイバスの建築に伴って、平成6年度4月18日から調査が開始され、本年度も4月13日～12月27日の期間に調査が行われた。県道甲府櫛形線とそこから北へ150mのところを東西へ走る町道までをI区、その町道から北へ約50mのところから北東から南西へ走る町道までをII区とした。本年度は、I区の南半分の第1層目（弥生時代後期・古墳時代前期の遺物包含層及び方形周溝墓・住居跡）と第2層目（弥生時代中期の遺物包含層）とII区の第1層目（古墳時代前期の遺物包含層及び住居跡）の調査を行った。南側の第1層目の遺構確認面は地表より約1m程度、扇状地に立地する遺跡のため比較的層位が安定しておらず、地山と遺構覆土との認識が極めて困難であった。しかし調査の結果、弥生時代後期の方形周溝墓二基の遺構が発見された。昨年度に確認された六基の方形周溝墓とあわせると九基になる。第2層目は弥生時代中期の遺物包含層で多くの土器片が検出された。比較的安定した層位であったが、住居跡などの遺構を検出することができなかった。II区では第1層目の遺構確認面が約50cm～70cm程度である。層位は砂礫層があつて堆積しており、調査区の北東の一角に遺物包含層が残っていた。そこから古墳時代前期のものと思われる住居跡が一基確認された。

遺物では古墳時代前期の土師器や弥生時代後期の土器が多数出土している。I区の方形周溝墓から出土している土器には昨年の調査で発見されたような、葬送儀礼に使用されたと思われる小型の壺型土器や壺型土器が溝状遺構のなかから出土している。第2層目からは弥生時代中期中葉の土器および石器、黒曜石などが出土した。II区の第1層目は古墳時代前期の土師器が住居跡とともに出土している。

本年度の調査で発見された遺構は、弥生時代後期の方形周溝墓二基、古墳時代前期の住居跡一基、弥生時代の住居跡一基となる。なお今年度に当遺跡の南側未試掘地域を試掘調査した。その結果、当遺跡の方形周溝墓群と同じ方形周溝墓の溝状遺構が数基確認されている。この地域は北に当遺跡が、南に村前東遺跡が隣接している。来年度はこの地域の本調査が行われる予定であるが、この試掘調査の結果から今年度以上の成果が期待できるものと思われる。またこれらの成果が十五所遺跡と村前東遺跡との両資料を検討することにより、中巨摩郡櫛形町十五所地区の弥生時代後期の集落



十五所遺跡 位置図

と墓域とのあり方を考察することができるものと思われる。なお本調査に平行し、中巨摩郡若草町新居道下遺跡の未調査500m²を調査した。その結果、第1層目から奈良時代の住居跡一基を検出し、それに伴う土器が出土した。



写真1 8号方形周溝墓航空写真（西から）

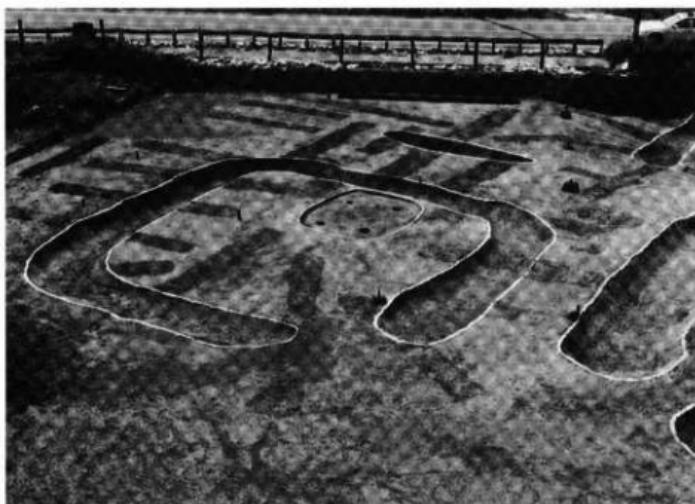


写真2 9号方形周溝墓（北西上から）

5. 甲府城跡（県指定史跡）

所在地 甲府市丸の内1丁目5番地内

事業名 舞鶴公園整備事業

調査期間 1995年4月8日～1996年3月31日

調査面積 約7,000m²

担当者 八巻與志夫・柏木秀俊

県指定史跡甲府城跡では、舞鶴公園整備事業に伴う発掘調査を実施しており、本年で6年目を迎える。以下調査箇所ごとにその概要をまとめる。（なお、概要是1996年1月末現在である。）

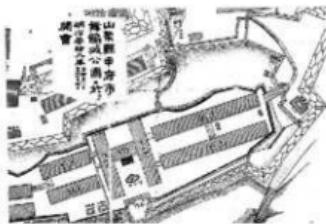
銀治曲輪は、本丸より南に位置し、公園内では最も低い地点である。昨年度はこの銀治曲輪の西側を調査し、絵図に残る米蔵跡や井戸・井戸に伴う浄化施設の構・木組みの中柱を検出した。本年度の調査は、銀治曲輪の東側で実施した。その結果、絵図に残る勘定所跡・石組井戸1基・明治39年に実施された勧業博覧会の施設跡を検出した。勘定所跡では、柱穴と思われる土壠か勘定所を囲む塀と思われる平石列を検出した。石組井戸は、すでに埋められていた。直径1間、深さは、未完掘のため分からず。井戸内より石灯籠の蓋手部分1点を検出した。おそらく、井戸は築城期に構築されたものだが、勘定所が設置された江戸中期には、その機能を失っていたと思われる。勧業博覧会の施設は、コンクリートの基礎が東西方向で確認された。天守曲輪は、本丸と銀治曲輪の中間に位置する。昨年度は、地中石垣を検出した。本年度の調査は、石垣改修工事に伴うものである。石垣の解体に伴い、地中石垣・裏石垣・石組井戸1基を検出した。地中石垣は昨年度検出したもの以外で南北方向に3本、裏石垣は、現況石垣に沿う形で東西方向に1本検出した。地中石垣・裏石垣共に使用されている石は小ぶりで、江戸期の生活面より下層の石垣盛土中より検出したことから、これらの構造物は、現況石垣構築と共に設置されたと思われる。設置目的については、石垣施工と盛土施工を同時に行う時の効率を上げるためにと思われる。なお、地中石垣・裏石垣共に全国でも類例が少なく、その検証については、今後の課題となる。石組井戸は、石垣解体中に検出した。検出時には、すでに上部5mではなく、井戸内も埋められていた。井戸内では、礫や瓦が層位的に確認できた。直径1間、深さ8mで地山の岩盤まで掘り込まれていた。井戸内から検出した瓦は、築城期のものが多く、中でも金箔が多量に付着した鬼面瓦の一部位が検出された。井戸は、石垣構築と共に設置されたが、その後の石垣改修工事で、その機能を失ったと思われる。また、石垣の裏込層からは、これまでの調査と同様に宝鏡印塔・五輪塔・穀臼・茶臼などの石造物を検出した。これらの石造物は、甲府城築城以前の一蓮寺の存在を裏付けるものである。稲荷曲輪櫓台周辺は、青少年科学センターの北側に位置する。櫓台天端からは、櫓の礎石を検出した。また、浅野家の「進い鷹の羽文」軒丸瓦を数点検出した。なお、当箇所の調査は現在も継続中である。



甲府城跡 位置図



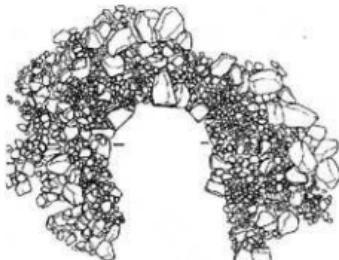
鍛冶曲輪調査風景



明治39年勧業博覧会建物配置図鍛冶曲輪



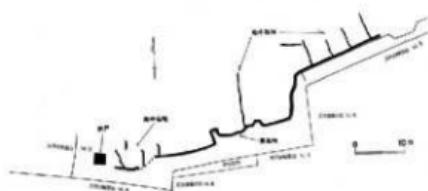
鍛冶曲輪調査区全体図



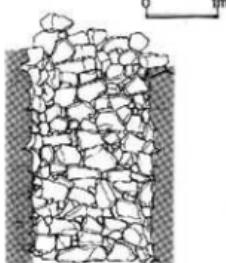
鍛冶曲輪より検出した井戸（平面図・立面図）



天守曲輪より検出した裏石垣



天守曲輪地内石垣・裏石垣・井戸配置図



天守曲輪より検出した井戸
(平面図・立面図)

6. 大塚遺跡

所 在 地 中巨摩郡八田村野牛島字大塚外
事 業 名 八田御勤使南地区拠点工業団地造成
事業
調査期間 1995年6月1日～12月25日
調査面積 18,800m²
担 当 者 新津 健、高野政文

大塚遺跡は、御勤使川扇状地北端の標高335mを測る緩傾斜面上に立地する。北側には現御勤使川が流れおり、本遺跡がのる尾根の北面はこの御勤使川により侵食され、比高差3～5mほどの崖をなしている。川の北岸は竜岡台地につながっているが、この台地の一部は御勤使川南岸にも延びている。縄文時代の赤山遺跡として知られる台地がこれにあたり、大塚遺跡の東約500mに位置する。

旧御勤使川は本遺跡の南約700mを流れていたとされる。ほぼ現在の県道竜王・芦安線が走るところである。現在の御勤使川は中世戦国時代頃に開削されたと伝えられており、本遺跡の中心をなす古墳時代から奈良・平安時代には旧御勤使川が流下していたものと考えられる。

20,000m²を越える調査対象地区の中央には浅い谷が走っており、試掘調査の結果ではこの両側の尾根上にそれぞれ住居群が確認できたことから、北側の尾根をA地区、南側の尾根をB地区として調査を進めた。調査の結果、A地区からは古墳時代五領式期の住居跡6軒、水路跡1本、奈良・平安時代の住居跡9軒、水路跡6本等が発見された。古墳時代の遺構群は調査区の東部分にまとまっているが、奈良・平安時代は非常にまばらである。水路は南から北に向かって流れていたとみられ、旧御勤使川との関係において興味深い。またB地区との間に広がる谷部からは、江戸時代の水田跡3面や水路跡、石垣等が調査された。この水田面の下からは内耳土器破片も出土していることから、さらに遡った時期にも土地利用されていたことが分かる。

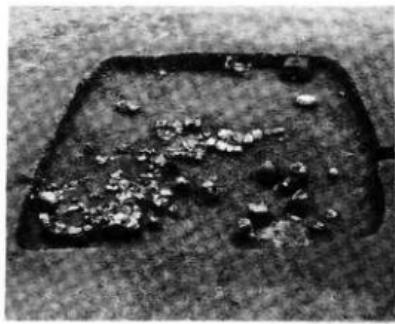
B地区からは奈良・平安時代の住居跡23軒、水路跡4本、土地区画の溝などが発掘された。水路の一部はA地区的ものと繋がる可能性がある。住居群は比較的まばらに広がっているが、数ヶ所に群在する傾向も認められ、時期による集落構成の解明など今後の整理作業に期待される。A地区と同様に中央谷寄りの地区からは、江戸時代の水田跡や水路跡が発見された。

また、本地区の西端からは縄文晩期の浮線文系深鉢形土器が出土しており、付近にこの時期の集落があったことが推測される。

従来、御勤使川扇状地のこの地域には遺跡の所在があまり知られていなかったが、今回の調査を契機に調査も進むものと期待される。



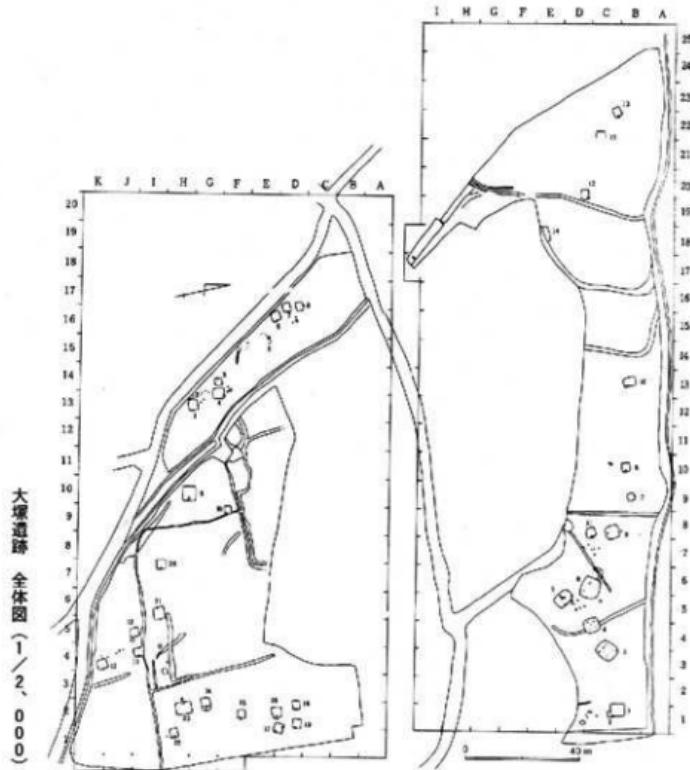
大塚遺跡 位置図



4号住居址



全 景



大塚遺跡
全体図
(1/2, 000)

7. 酒呑場遺跡

所在 地 北巨摩郡長坂町上条621-2外

事 業 名 酷農試験場新・改築

調査期間 1995年4月17日～12月7日

調査面積 4,000m²

担 当 者 野代幸和・村松佳幸

山本茂樹・川手昌英

酒呑場遺跡はJR中央線長坂駅から南へ1.25km下った、大深沢川と宮川に挟まれた舌状台地上に位置する。標高は690～710m付近である。

昨年度から継続して調査を実施しており、今年度は第2次調査にあたる。

調査区は、肉用・哺育育成牛舎予定地をC区、飼料庫・敷料庫予定地をD区、種畜調整作業室予定地をE区、その他電気配管・漫透溝などの地下埋設予定地をF～H区とし、また、昨年度のB区の北側の続きを発掘調査した。今年度調査区は昨年度調査区より北側に位置する。

発見された遺構は、B区から縄文前期後半住居跡4軒・土坑約10基・集石1基、C区から縄文中期前半住居跡100軒以上・古墳時代住居跡9軒・掘立柱建物跡3棟・土坑約1500基など、D区から縄文前期後半住居跡5軒・中期初頭住居跡2軒・古墳時代住居跡3軒・時期不明住居跡1軒・掘立柱建物跡1棟・土坑約120基・野外埋甕1基、E区から古墳時代住居跡1軒・土坑約200基など、F区から縄文中期後半住居跡1軒・土坑約30基、G区縄文中期前半住居跡4軒・土坑30基、H区から縄文前期後半住居跡1軒・土坑約4基である。

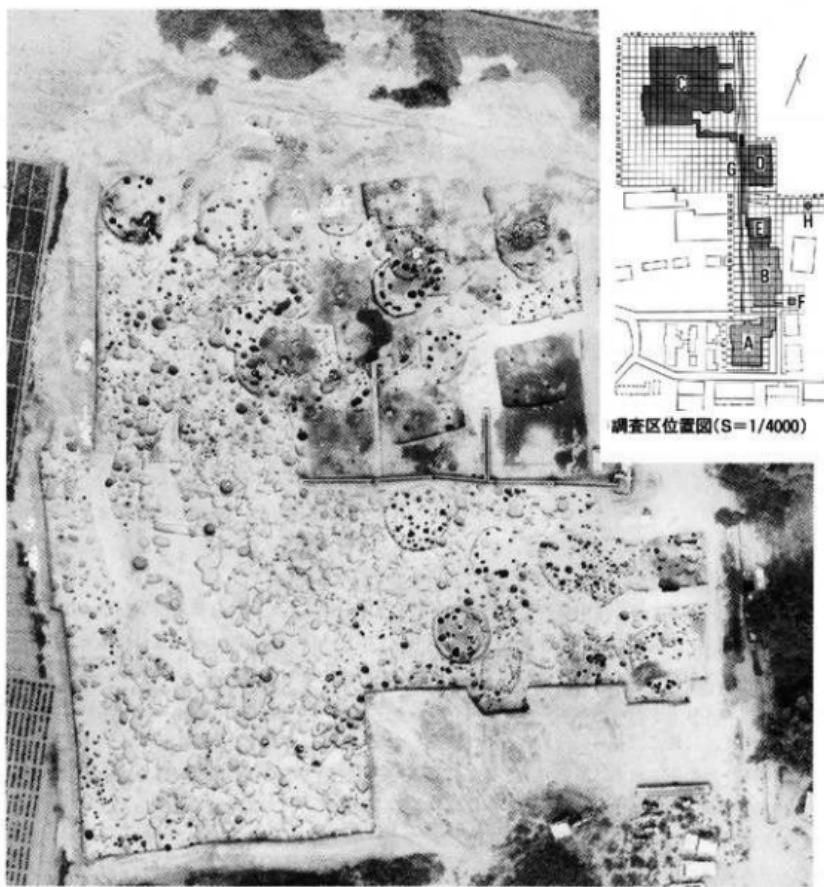
昨年度からの調査の結果、縄文時代には大きく分けて前半後半・中期前半・中期後半・後期前半の4期にわたり、集落の位置が移り変わっていることが分かった。台地中央縁辺部寄りに前期後半の集落があり、中期前半には台地南側と北側に集落が分かれ、中期後半には台地南側に集落が展開し、後期前半の集落に統っていく。中でも中期の集落は大環状集落であり、北巨摩地域の拠点的集落の一つであったと考えられる。

出土遺物はプラスティックコンテナ(約40ℓ)で約600箱分もあり、特殊な遺物も土偶・状状耳飾・土製耳飾・土鉈・管状土製品・垂飾・ミニチュア土器・土製円盤など数多く出土している。中でも特筆すべきものが、C区北側の土坑から出土した漆塗り土器である。タテ約12cm×ヨコ約18cmの浅鉢の口縁部片の内面に、下地に黒漆を塗り、その上に赤漆で菱形と勾玉のような模様を描いている。外面は縄文を施しているだけである。時期は前期後半の諸磯b式であり、県内では大泉村の天神遺跡・甲ツ原遺跡から外面に漆を塗った土器が出土している。当時、漆塗りの技術が県内にもあったという証拠であり、生活の豊かさを示す例として貴重な資料である。

その他、昨年度でも確認されていたが、出土土偶中3点に極僅かであるが白色顔料が塗布されているものが確認できた。一部分析したが、この物質が何であるかはまだ分かっていない。



酒呑場遺跡 位置図



C区全景



塗り土器（左・内面 右・外面）

8. 四ツ塚古墳群

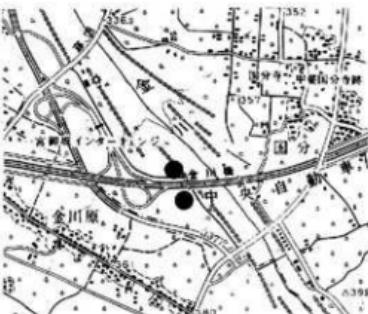
所在 地 東八代郡一宮町国分字猪ノ前1269-1他

事 業 名 「山梨県森林公園 金川の森」関連事業

調査期間 1995年8月28日～12月12日

調査面積 1,201m²
(エリア2区877m² エリア7区324m²)

担当 者 森原明廣・石神孝子



四ツ塚遺跡 位置図

甲府盆地の東に位置する御坂山地に金川は源を発している。金川は扇状地を形成しながら、やがて笛吹川に合流する。この付近の金川右岸には国分築地古墳群、蛭塚古墳など、左岸には長田古墳群など数多くの後期古墳が群集墳を形成している。四ツ塚古墳群も例外ではなく、金川左岸の自然堤防に立地しており、その存在は早くから知られていた。昭和55年の中央自動車道建設に先だっては6世紀代から7世紀前半に位置づけられる22基の古墳が確認調査され、甲府盆地における古墳時代後期の墓制の一端が明らかになった。

調査区は事業者である甲府林務事務所により、便宜上分けられた中央自動車道北側のエリア2区と南側のエリア7区の2箇所に分かれて所在する。エリア2区には数多くの古墳が分布することが前回の調査から既に想定されていた。それらの所在を明確にした上で園路を迂回させ、保護する目的で踏査による確認調査を行った。その結果36基の古墳であると思われる遺構を確認したが、そのうち1基は既に天井石が失われ石室が露出しており、2基は園路予定地の変更不可能な場所に位置していたため、前者は清掃発掘と範囲確認調査を、後者2基は記録保存の形を取ることになった。またエリア7区は中央自動車道の南に位置している。事前調査の段階で2基の古墳であると思われる遺構が確認されたが、古墳であることが明確でなかったため調査を行うこととなった。そのため各古墳の名称は調査済みである古墳に継続して、エリア2区の3基は第23・24・25号墳、エリア7区の2基は第26・27号墳とした。

第23号墳は範囲確認調査であったため、石室とその周囲のトレンチ調査を行った。直径8mの円墳で、石室全長4.0m、玄室1.0m、敷石は大部分が失われ閉塞部分のみしか残存していない。前庭部からは平安時代の土師器が出土し、副葬品・供獻土器等は認められない。第24号墳は第23号墳より東に位置している。周溝を有し、直径7mの円墳である。石室の残存状況は良好で、石室全長3.1m、玄室幅1.0m、現存高は1.9mを測る。石室内からは平安時代の土師器のみが出土した。また前庭部より供獻用と思われる須恵器焼片が出土した。第25号墳は第24号墳の南にほとんど接するよう立地している。直径8mの円墳で墳端には縁石が一部巡っている。石室の残存状況は良好とはいはず、側壁は最下段のみしか残存していないが敷石は完存している。石室全長は3.2m、玄室幅は1.0～1.2mを測る。奥壁から30cm程度離れた敷石上より刀子が、前庭部より平安時代の土師器が

出土した。エリア2区の3基とも南に開口している。第26号墳は5基の中では最も大きく、直径16mの円墳である。残存状況は良好で石室全長4.5m、玄室幅1.4m、現存高1.7mである。石室内からは人骨、刀装具、鉄鎌、切子玉、ガラス玉、勾玉等の玉類が、前庭部からは須恵器が出土した。第27号墳は調査区と私有地にわたっており、半分のみの調査となつた。直径7mの円墳で石室全長は3.2m、石室幅は0.9~1.1mを測る。石室内から平安時代の土師器が出土したのみであった。このような調査結果から、第26号墳は6世紀末から7世紀前半の、それ以外は7世紀前半の所産であるという印象を受けたが、石室及び出土遺物の検討を行うなどの整理作業を経て明確な築造時期を判断したい。

なお、これら5基の古墳全ては歴史に親しんでもらうために公園内に築造時に近い形で復元保存され、活用されることとなつた。



第24(左前)・25号墳

9. 「山梨県森林公園 金川の森」関連事業

東八代郡一宮町国分・坪井・竹原田地内の金川の河岸沿いで進められている「山梨県森林公園 金川の森」（旧仮称森林と水のプロムナード）の建設に伴い、分布調査および工事立ち会いを実施した。

なお、以下の4遺跡については試掘調査・本調査を実施し、その一部については埋設ないしは復元を伴う遺跡保存を実施した。

9-1 南西田遺跡

所在地 東八代郡一宮町坪井字南西田1370-1他
事業名 「山梨県森林公園 金川の森」

関連事業

調査期間 1995年5月10日～6月10日

調査面積 100m²

担当者 森原明廣・石神孝子

南西田遺跡は御坂山塊から流出した金川により形成された金川扇状地の扇端部、金川右岸に位置している。この周辺には特に奈良・平安時代の遺跡が数多く分布しており、南西田遺跡の金川を挟んだ対岸には平安期の大集落遺跡である大原遺跡も存在している。

調査は公園施設の建設予定区を対象とし、A～Cの3区に分割して実施した。各区ともに金川の氾濫による砂層堆積が著しく、明確な遺構等を検出することはできなかった。しかしながら、B区においては地表下約1m、C区においては地表下約1.5mに弥生時代後期・古墳時代前期・古墳時代後期・平安時代前期・平安時代末期における土器資料の包含層を確認したことにより、周間に該期の集落遺跡等が存在する可能性を指摘することができた。

なお、南西田遺跡の一部（A区）については「埋蔵文化財包蔵地」であることを試掘確認した上で、舗装を伴う駐車場下に保存処理をした地区を設けた。この地区については表示板掲示を行うとともに事業主体者との文書交換も行っている。



遺跡位置図
(1. 南西田 2. 西林 3. 豆塚北)



南西田遺跡 調査風景

9-2 西林遺跡

所在地 東八代郡一宮町国分字西林1082他

事業名 「山梨県森林公園 金川の森」

関連事業

調査期間 1995年8月21日～8月31日

調査面積 100m²

担当者 森原明廣・石神孝子



西林遺跡は金川扇状地の扇央部、金川右岸に位

西林遺跡調査風景

位置している。調査以前の遺跡周辺は山林となっており、自然堤防と考えられる微高地が幾筋も併行するような地形を呈していた。このような微高地間の挟小な谷間に約30基程度の大小様々な「石積み」が集中して地表観察され、何らかの遺跡・遺構であることが推測せずして確認されたのである。これらの「石積み」は1m四方から2m四方までと規模こそ多様であるが、平面形が正方形となるように石を3段ないしは4段積み上げて高さ約1m程度まで構築されていた。その意図的な構築状況や1地点（約600m²内）のみに集中する状況から見て中近世の民間信仰に関わる遺構（胎盤埋納施設・一字一石経塚・集石墓など）である可能性をうかがうことができたため、発掘調査を実施した。解体を伴う調査は公園建設によって損なわれる計5基について行った。しかし石積みの構築方法は把握できたものの、出土遺物が皆無であることから遺構の構築目的や築造時期などについては手掛かりを得ることができなかった。ただし、解体調査の対象とならなかった残りの石積みに何らかの手掛けりが残されている可能性もあり、今後の調査事例等によってはいこれらの遺構群の性格・時期究明にも可能性が残されている。このような観点から、この石積み遺構群については現状のまま公園内に保存し活用していくこととし、現地には解説板を設置する。

9-3 豆塚北遺跡

所在地 東八代郡一宮町国分地内

事業名 「山梨県森林公園 金川の森」

関連事業

調査期間 1995年9月18日～9月19日

調査面積 100m²

担当者 森原明廣・石神孝子



豆塚北遺跡は金川扇状地の扇央部、金川右岸に位

豆塚北遺跡調査風景

置している。この遺跡については「埋蔵文化財包蔵地」の試掘確認を行った上で、盛土および芝生貼りの広場を整備することとなり、地表下への埋設保存処置をおこなったものである。この地区については表示板掲示を行うとともに事業主体者との文書交換も行っている。なお、試掘調査で確認されたのは縄文時代晚期および平安時代前半期の遺構・遺物である。

10. 塩部遺跡

所在地 甲府市塩部二丁目

事業名 甲府工業高等学校改築工事

調査期間 1995年4月10日～10月6日

調査面積 10,000m²

担当者 小野正文・大谷満水

村石真澄・小泉 敦

甲府駅の西約1kmの甲府工業高等学校を中心
に塩部遺跡は大きく広がっている。地形から見
れば、甲府市の北側にそびえる標高1,200mほ
どの山稜から南に流れる相川の扇状地の西端で標高約267mを測る。大きな河川による洪水の影響
が少なく甲府盆地の中では比較的安定した土地である。

1953年には、「甲府工業高等学校校庭遺跡」としてグランド整備工事の際に出土したとされる古
墳時代の前期の土器が雑誌に発表され、この地に遺跡があることが早くから知られている。今回は
まさしくそのグランド部分10,000m²を半年という異例の短期間で発掘調査したものである。

塩部遺跡で確認された最古の遺物は、若干の縄文土器の小片や黒曜石製の石鏃である。縄文人の
狩猟や採集の場であったと考えられる。

次に活動が認められるのは、弥生時代の後期である。堅穴住居跡1軒（SB1と命名した）、断面
形がV字形の溝（SD7）、その他溝2本（SD8・9）などが
発見された。この弥生時代後期には集落が営まれていたが、
後世の人々の活動により大半の遺構は失われたものと考え
られる。

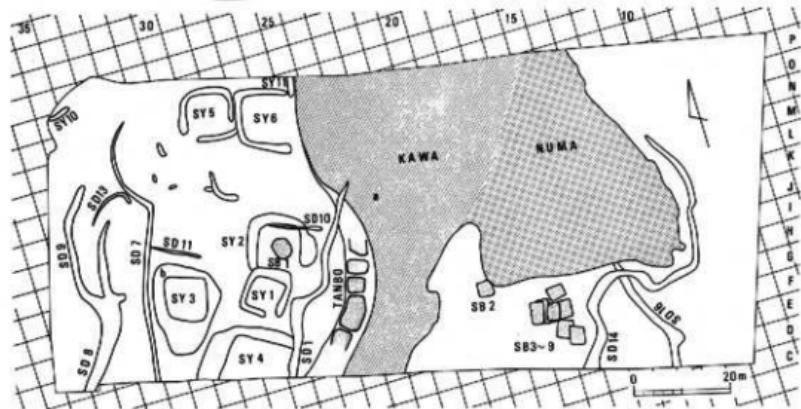
すぐ後の古墳時代の前期では、集落跡は消え、方形周溝
墓が部分的なものを含めて11基確認されている。しかし
ずれのマウンドも削平され主体部は確認できなかった。南
側の周溝が舌状に大きく張り出す特異な平面形をもつ方形
周溝墓（SY3）からは、重要な遺物が多く出土した。南側
の溝の中央からは、薄い緑色の大きなヒスイ製の勾玉（長
さ約5cm、幅約1.5cm）が1点、北西コーナーの溝からは、
馬の歯が上アゴと下アゴのものがそれぞれまとまって出土
した。また東側の溝中央からは、装飾器台と丸底壺、西側
の溝中央からも丸底壺が出土した。これらの遺物は4世紀
後半に属するものと考えられる。ことに馬の歯は全国的に
も非常に古く注目に値する。



人形



塩部遺跡 位置図

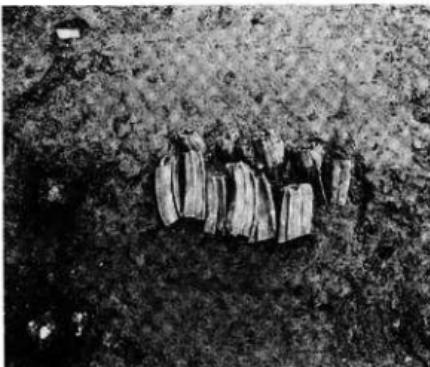


塙部遺跡全測図 (a : 人形出土地点、b : 馬齒出土地点)

奈良・平安時代の遺構・遺物は、相川の旧河道 (KAWA2)を中心発見されている。遺構は、この旧河道に沿って並んで発見された畦畔跡 (TANBO)、古い流路を利用してつくられたと考えられる溜池跡 (NUMA)、またこの溜池跡の南に建てられた竪穴住居跡 (SB2~9) などである。旧河道および溜池跡は、地下水が豊富であり遺物が水没の状態のままという好条件のため、木製品などが多く出土した。祭祀に使用された斎串 (いぐし)、木柵、人骨や獣骨、モモ、クルミなどの種子や堅果類などである。ことに旧河道からは、祭祀に使われた木製の人形 (ひとがた) 2体が頭を突き合わせるように近くから出土した。これら遺構遺物のもつ若干の年代差の検討は今後の重要な課題として、川を中心に水田を営み、祭祀を行っていた人々の生活がうかがえる。

溜池跡の上層や畦畔跡の上には砂が一面に堆積する洪水の痕跡があり、その後は住居跡や遺物は見られなくなる。広く水田として利用されたようである。「塙部田んぼ」と呼ばれた風景が彷彿とされる。

1945年7月6日夜半の甲府空襲の際に投下された焼夷弾38発とその弾頭3個も発見された。東西方向に飛ぶ空襲時の飛行コースも推定でき、戦史遺跡としても注目に値する。



馬齒 (方形周溝墓 [SY-3] 周溝内)

11. 一ノ坪遺跡

所在地 塩山市熊野字一ノ坪27他

事業名 県営熊野団地建設

調査期間 1995年10月11日～1996年1月12日

調査面積 2,200m² (7,200m²)

担当者 小野正文、小泉 敦

本遺跡は、甲府盆地東部の重川と塩川に挟まれた塩川の河岸段丘上に位置し、重川によって形成された扇状地の扇端部にあたる。標高は370mを測る。遺跡名とした小字の一ノ坪は古代条里制に由来すると考えられ、同じ塩山市の大字下於曾に残る同名の小字との位置関係から、どちらかが「三十一の坪」の三十を省略したものである可能性も考えられる。塩山市内に条里制地割が存在するか否かについては、今後検討を要する課題である。

本遺跡は、調査区の東西を塩川の新旧河道の氾濫で削平されているため、南北方向に舌状に残る台地上にのみ遺存している。本年度は年度内に建設に着手する調査区の南半分2,200m²について調査を行った。

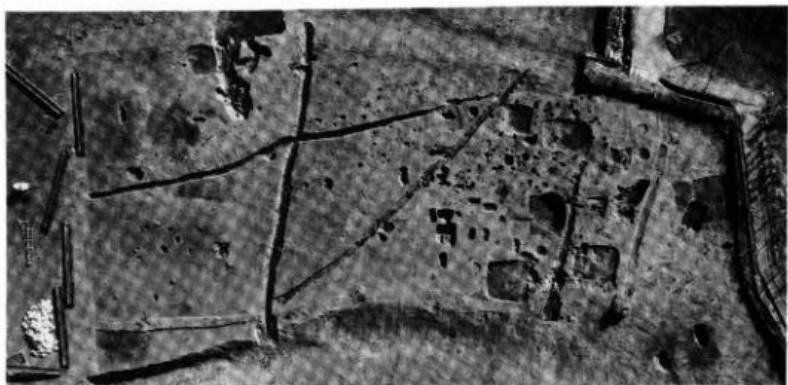
調査の結果、縄文時代の住居跡（炉址）1軒、土坑3基、平安時代末の住居址5軒、小竪穴2基、溝5条、土坑9基、掘立柱建物址1棟を検出した。1号住居址とした縄文時代の炉址は方形石圍炉であると考えられ、中期の有穴鉢付土器が逆位に埋設されていた。平安時代の住居址のうち3、6号住居址はいずれも北東コーナーにカマドを持つもので、3号住居址からは平安末の平底釜が検出されている。このほか平安末の土坑に伴う遺物としては、3号土坑から祭祀に用いられたと考えられる鐵鎌が3点検出されている。また5号土坑からは焼土と骨片が検出されていることから平安時代の火葬墓であると推定される。

5条の溝のうち1号溝～4号溝はほぼ同時期のものと思われ、このうち3、4号溝については調査区のほぼ真北に沿っており、古代条里制との関連も考えられ、興味深い。4号溝は8号土坑からの排水溝の役割を果たし、3号溝は8号土坑に、2号溝は5号住居址と11号土坑に水を供給していたものと考えられることとあわせると、これらの土坑は水を利用したなんらかの工房址であると推定される。また16号土坑、4号住居址、5号住居址に関しては性格は不明ながら、いずれもなんらかの工房址である可能性が考えられる。

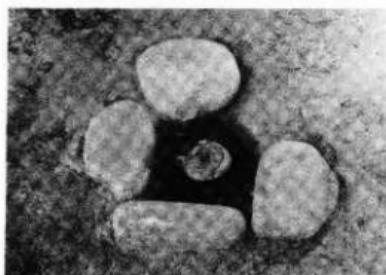
現在、3号溝のセクションと、性格不明でなんらかの採掘坑の可能性の残る12、13、14号土坑に関して土壤サンプリングを行い、鉱物分析を行っている。



一ノ坪遺跡 位置図



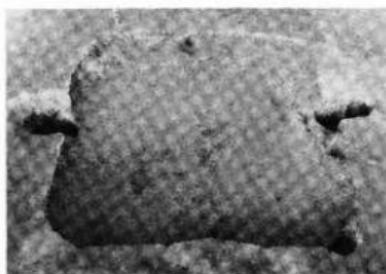
一ノ坪遺跡全景(空中写真)



1号住居址 炉址 土器出土状況



2・3・4号窯および5号住居址



5号住居址

12. 古婦毛遺跡

所在地 東山梨郡勝沼町下岩崎512-1 外
事業名 県営住宅建設

調査期間 1995年11月1日～1996年1月26日

調査面積 5,375m²

担当者 村石真澄・高野住起

日川の支流である田草川と坂下川によって河岸段丘状に削られた京戸川扇状地の北西末端に古婦毛遺跡は立地する。そして、この両河川によって中州のように囲まれている。扇状地の扇頂部から扇央にかけては駿遊堂遺跡群に代表される縄文時代を中心とした遺跡が豊富にある。

また、この遺跡の南西約150mには鉢塚と呼ばれる横穴石室をもつ円墳がある。『勝沼町誌』によれば、この付近には鉢塚のほかに明治時代までに消失した古墳が数基あるとされている。

調査は1区から12区までに分けて行い、まず8区(2本)、1区(4本)、3区(1本)、12区(4本)、7区(4本)、6区(3本)、5区(3本)の計21本のトレンチを順次入れ試

掘調査を行った。その結果本年度は、2区と7区の北半分全面の本調査を行った。

発掘の結果、2区からは住居跡1軒、焼土集中2ヶ所を確認した。2区の住居跡(SB-1)は奈良時代に属し、カマドが煙出しに至るまで大変残りのよい状態で確認することができた。煙道の長さは約1.2mで、カマドの内部からは構築していた粘土がかぶさった状態で甕などの土器、またカマドの前からは灰が出土した。さらに、カマドの天井部が崩れ落ちた状態で一部残っていた。2区の確認面からは縄文土器の破片も多数出土している。

7区北半分からは、住居跡数軒、ピット多数を確認した。北西より住居跡(SB-2)は古墳時代前期の住居でやや大きく、いくつかの住居が重複している。床面から多くの土器が出土した。

12区の試掘調査では、時代はまだはっきりと確定できないが、水田と考えられる面をいくつか確認した。この水田跡については、来年度表土を剥いだ上でより精密に調査する予定である。

京戸川扇状地の末端で、田草川・坂下川の氾濫原になっている本遺跡で住居跡を複数確認できたことは、同様の地形をもつ周辺地域にて未知なる多くの遺跡が埋没していることを示唆するものである。



古婦毛遺跡 位置図



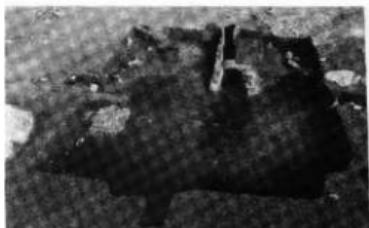
古婦毛遺跡を西から望む



古墳毛遺跡全景



住居跡 (SB-2) 発掘調査風景



住居跡 (SB-1) 完掘状況



カマド・土器出土状況 (SB-1)



カマド出土状況 (SB-1)

13. 甲ヶ原遺跡

所在 地 北巨摩郡大泉村西井出字和田

9075-1 外

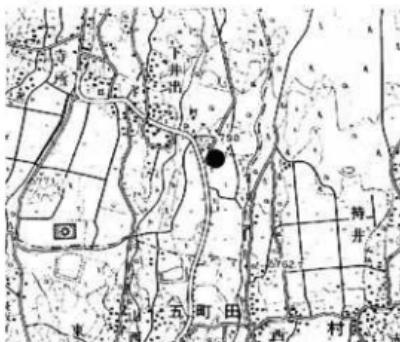
事 業 名 一般県道須玉・八ヶ岳公園線建設

調査期間 1995年9月20日～11月28日

(第6次調査)

調査面積 約820m²

担当者 山本茂樹、川手昌英



甲ヶ原遺跡 位置図

緩やかに傾斜した八ヶ岳南麓の裾野、標高約
790mに甲ヶ原遺跡は位置している。周辺は、

八ヶ岳中腹あたりの湧水地から流れる甲川と油川に挟まれた舌状台地となっており、遺跡のすぐ西側を甲川が流れる。

本遺跡は、一般県道須玉・八ヶ岳公園線の建設に伴い、1989年度から1995年度にわたり、発掘調査が行われ、今後もさらに継続される予定である。

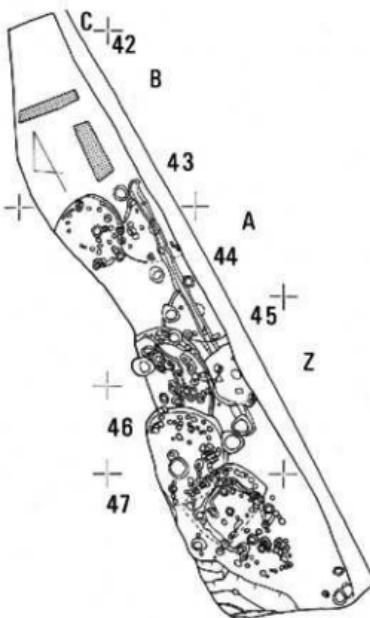
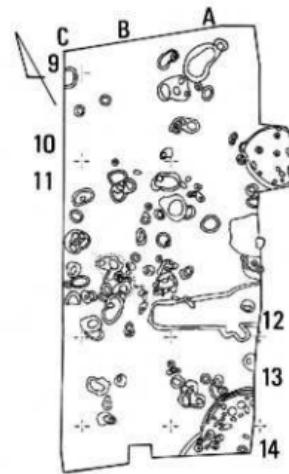
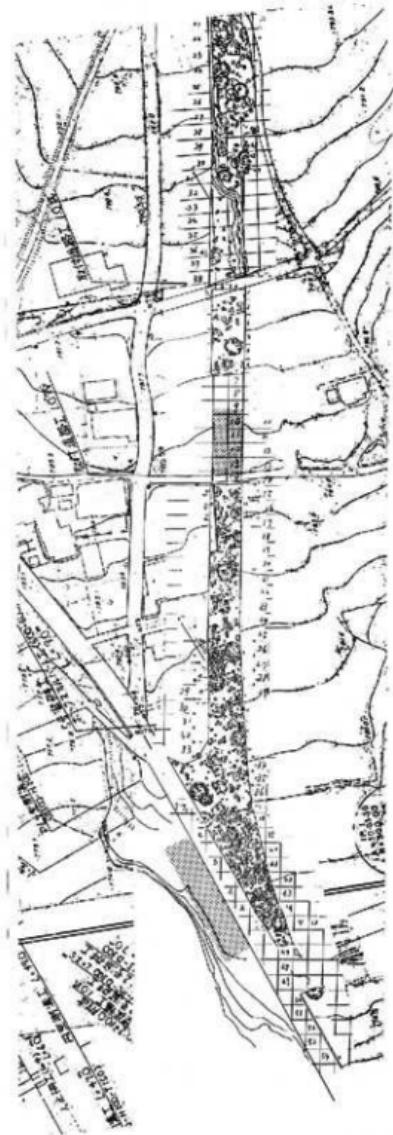
周辺の遺跡には、天神C遺跡、寺所遺跡、御所遺跡、金生遺跡、姥神遺跡など縄文時代を主体とする遺跡が数多く存在している。

今回の発掘調査対象地は、畑地および別荘地の一部である。また、調査方法は、前年度に引き続き5m×5mグリッドで行った。

現道脇の畑地については、約130m²と狭い範囲であり、道路脇といふこともあって遺構確認面より更に深く擾乱によって削られている。そのため出土遺物は全体的に少なかった。しかしながら、住居軒数は予想を上回る数で、重複および拡張された住居を含めると、その数は10軒にのぼる。時期的には、縄文時代前期後半の諸磯c式期2軒、中期前半の路沢式期・新道式期の4軒で、拡張された住居および時期不明が4軒である。住居跡のうち2軒については、擾乱を受けながらも出土遺物は豊富であった。なお土坑は、10基前後である。

別荘地および畑地については、以前より表土から確認面まで浅いことが明らかであったことから遺構の遺存状態は悪いものと予想され、また調査区の前後が調査されていることにより、遺構の密度は薄いものと考えられた。発見された住居軒数は4軒で、調査区外に広がっているため住居跡の全体を調査することはできなかった。時期的には、縄文時代中期の新道式期の住居跡で、遺物としては、縄文時代前期後半から中期後半まで出土している。なお土坑は、数基発見されている。

今回の調査で明らかになったことは、集落の範囲がかなり明確となったこと、南端の道路部分の箇所について、半分削られた住居跡が2軒存在しており、現地形が圃場整備や水路によって削られていたこと、そして埋没谷が形成されていたことなどである。



甲ヶ原遺跡全体図及び第6次調査遺構図

14. 大明神遺跡（第2次）

所在地 南巨摩郡増穂町字大明神50外

事業名 富士川西部広域農道建設

調査期間 平成7年6月12日～10月1日

調査面積 1,200m²

調査担当 高野玄明 宮里 学

櫛形山から湧きだし西から東に流れる利根川左岸に本遺跡は位置し、標高は約270mである。遺跡が位置する一帯は、利根川のほかに戸川・秋山川から成る複合扇状地である。甲府盆地を東に一望し、周辺は静かな果樹栽培地帯となっている。

本年度の調査は、93年度の第1次調査の続きである北側部分が対象であった。遺跡の規模及び状況は、縄文時代早期の土器を出土した土坑が2基、弥生時代末から古墳時代初頭に属する住居跡11軒、土坑24基、溝状遺構7条、中世の遺物集中1ヵ所、時期不明の石垣状遺構が一基である。遺構の分布は、調査区北側で確認された石垣状遺構を省き、調査区の南半分に集中する傾向にある。縄文時代および中世の遺構も、同様に南半分に集まるが、全体的には切り合い関係も僅かに認められる程度の遺構配置である。

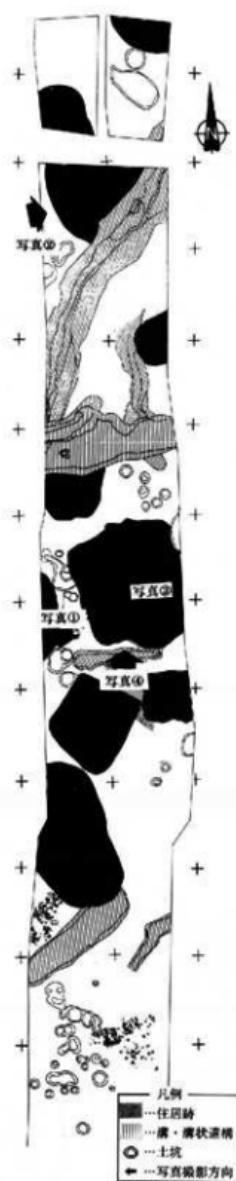
遺構については、弥生時代末から古墳時代初頭に属するものが圧倒的に多い。検出された住居跡は11軒全てが該期に属するものであるが、農道建設という性格上調査区の幅が8m前後と狭く、完全に調査できたものはない。住居跡の形態は、隅丸方形が多く、1号住居跡は梢円形で長軸7.5mを測る大型のものである。この他、隅丸方形の5号住居跡が7.1mと大きいが、この住居跡は重複または拡張が考えられ、全体的には4m前後の大きさの住居跡が主流となろう。

遺物については、縄文時代早期に属する土器3個体が2基の土坑から各1個体及び遺構外から1個体が、ほぼ完形で出土した。内2個体は胎土に纖維を含むものであり、これらに類する資料がまとまって出土する事例は県内では少なく、今後の好資料となるであろう。弥生時代末から古墳時代初頭の遺物についてはほとんどが住居跡内床面及び覆土からの出土であった。器種としては、大小の甕・壺・台付甕が挙げられ、近畿系特徴を持つ土器も確認されている。

注目すべき遺構としては、5号住居跡北東壁より出土した青銅製の銅鏡があげられる。出土地点は、37土坑と重複関係にあるが、本調査区内唯一の出土例で、先端を下に突き刺さる状態で覆土中から出土した。青銅製銅鏡の出土例は県内でも少なく、また埼玉県の向原遺跡の報告事例と出土状態などの点で極めて類似し、本出土品については宝器的または儀式的意味合いが想定され今後の課題となろう。

今回の調査結果から本遺跡は、弥生時代末から古墳時代初頭にかけての集落跡であることが判明した。また、遺構の検出状況から、東西及び南方向に本遺跡は広がると推測される。





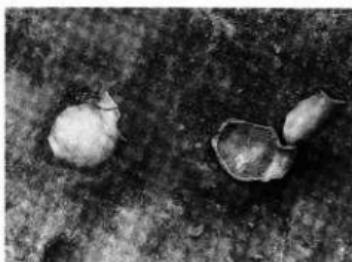
調査区南側全体図



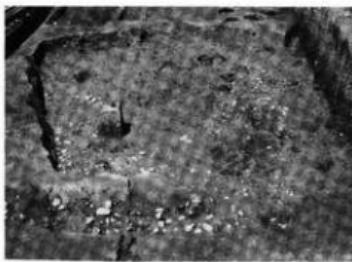
遺物出土状況(縄文時代)



調査風景



遺物出土状況(古墳時代)



5号住居跡

15. 音羽遺跡

所在地 甲府市音羽町4番地外

事業名 音羽県職員宿舎建設事業

調査期間 1995年5月8日～7月7日

調査面積 約400m²

担当者 萩原孝一・田口明子

甲府盆地の北、荒川中流左岸に位置する音羽遺跡は、標高約290mを測る。本遺跡は、音羽県職員宿舎建設事業に伴うもので、1992年度に調査を実施した区域の南側にあたる。前回の発掘調査では、弥生時代後期～奈良時代初頭とみられる住居址5軒、土坑10基、溝状遺構7基が確認された。

今回の調査により確認された遺構は、住居址3軒、土坑4基、溝状遺構6条、礎石とみられる石3基が確認されている。出土遺物は壺や甕の破片などが見られ、時期は古墳時代後期～奈良時代初頭に位置づけられる。

1号住居址は、長辺2.7m、短辺2.6mの方形を呈している。カマドは住居址東壁の中央よりやや南に片寄った位置で確認され、カマド内から甕がつぶれた状態で出土した。また、柱穴が2基確認された。2号住居址は、東西3mを測るが、南側の範囲は確認できなかった。カマドは住居址東側に確認された。また、古墳時代後期と見られる杯が出土した。3号住居址は、東西3.9mであるが、住居址西側及び南側が搅乱を受け、範囲は確認できなかった。住居址西壁際で甕がつぶれて出土し、その北側・東側に焼土を確認したものの、カマドは確認できなかった。

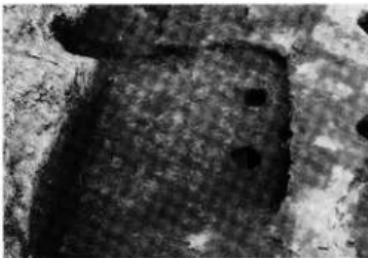
その他、礎石らしき石が3基掘り込まれた状態で確認され、石はなかったものの同様の掘り込みがもう1基確認された。また、黒色粘土中から昆蟲遺体、種子などが確認された。これについては、今後分析を行う予定である。



音羽遺跡 位置図



調査風景



1号住居址

16. 古堰遺跡

所 在 地 北巨摩郡高根町箕輪新町字西上
野原1167-5

事 業 名 国道141号箕輪バイパス建設工事
調査期間 1995年7月10日～7月21日
調査面積 約500m²
担 当 者 萩原孝一・田口明子

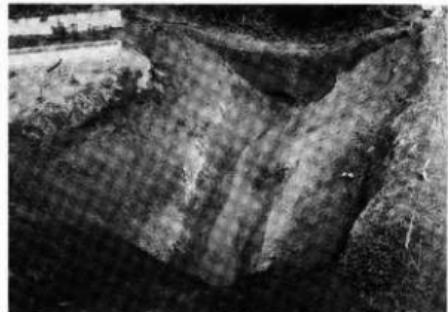
山梨県の北西端に長野県との境をなす八ヶ岳がある。その南東麓、標高約745mに本遺跡は位置する。江戸時代中頃につくられた佐久往還

(現国道141号)沿いの宿場町の一つである箕輪新町がすぐ南にある。約450m東を、八ヶ岳に発する須玉川がゆるやかに蛇行しながら南流する。

古堰遺跡は佐久往還に隣接しているが、平成5年度末に実施された試掘調査により、江戸期のもとのとみられる水路跡が確認された。地元では「古堰」と呼ばれている。今回の調査では、水路の形態と遺物の採取に努めた。

発掘は主に重機の掘り下げの後、人力で精査を行った。梅雨期のため、掘り下げ途中に底より湧水があり、水中ポンプによる排水を行ながらの厳しいものであった。

その結果、長さ約13m、幅約15m、最大深さ約7mの断面V字形の水路の跡を確認した。しかし、遺物は採取できなかった。



古 堰



古堰遺跡 位置図



「古堰」現況図 (1/10,000)

17. 大林上遺跡

所在 地 北巨摩郡高根町箕輪2433外
事 業 名 国道141号箕輪バイパス建設事業
調査期間 1995年7月10日～11月13日
調査面積 約3,500m²
担 当 者 萩原孝一・田口明子

本遺跡は、高根町箕輪の大林地区にあり、八ヶ岳を背景にした標高約670mの微高地上に位置する。国道141号箕輪バイパスの建設事業に伴うもので、1994年度に本調査に先立って、15ヵ所のトレンチを設定し、試掘調査を行った。その結果、平安時代と思われる住居跡2軒と黒褐色粘土の溝1条を確認し、遺物としては、平安時代の土器数片が出土したことから、今回の発掘調査を行うこととなった。

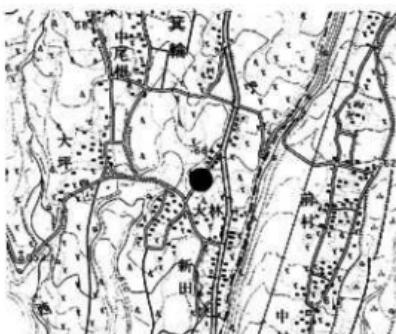
今回の発掘調査により、平安時代の堅穴住居跡5軒、掘立柱建物址1ないし2、時期不明の土坑100余基、近代のものと思われる溝2条が確認された。

1号住居跡は、長辺4.7m、短辺4.5mの方形で、周間に周溝が走る。カマドは東壁中央よりやや南に位置している。床面より上50cmからはほぼ完形の高台付窯が出土した。また、床面では多くの炭化物が確認された。3号住居跡は、長辺6.0m、短辺4.5mで南北に長い長方形となっており、南東隅と北東隅の2つのカマドが確認された。また、住居跡内の床面には、ほぼ円形の焼土化した箇所が3ヵ所確認された。4号住居跡は、長辺3.8m、短辺3.7mの方形で、東壁中央よりやや南にカマドが位置している。本遺跡の他のカマドと異なり、石により方形に囲まれている。5号住居跡は、長辺5.2m、短辺4.8mの東西に長い長方形を呈し、南東隅にカマドが位置している。床面には焼土化した箇所が3ヵ所確認された。6号住居跡は、長辺3.3m、短辺2.3mの長方形で、北東隅にカマドが位置している。床面に焼土化した箇所が2ヵ所確認された。柱穴・ピット等は確認できず、遺物もほとんど出ていない。

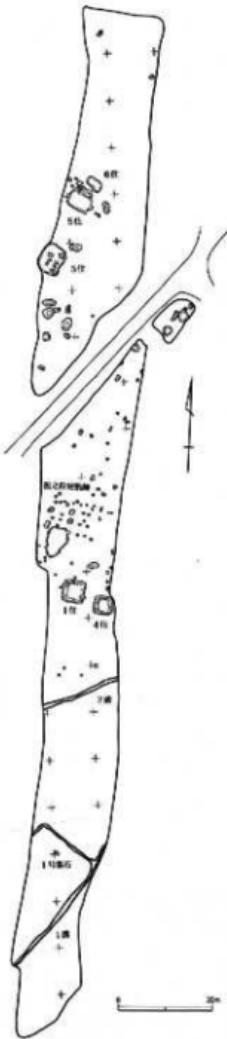
1、4号住居跡の北側では、掘立柱建物跡と思われる柱穴群が確認され、1ないし2基の掘立柱建物があったと推定される。また、長径約2m、短辺約1mの梢円形の土坑から馬の頭部の骨が出土した。時期は不明である。同規模の土坑が他にも数基見られるが、それらの土坑からは遺物はほとんど出ていない。

また、遺物の密度がうすい区域で、集石遺構が確認された。直径約1.3m、確認面から底まで約50cmのほぼ円形の土坑に、確認面から約35cmの厚さで、直径約10～20cmほどの石が100余り堆積していた。遺物は確認できなかった。

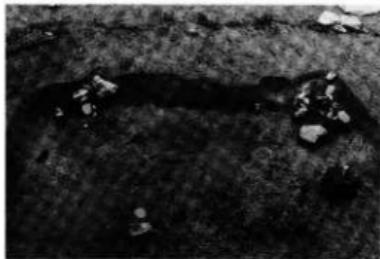
縄文中期の土器片及び石器が若干出土しているが、それにともなう遺構は確認されなかった。



大林上遺跡 位置図



大林上遺跡全体図 ($S = 1/1,200$)



3号住居跡カマド



4号住居跡カマド



現地説明会

18. 海道前C遺跡

所在地 北巨摩郡高根町箕輪1369外
事業名 国道141号箕輪バイパス建設工事
調査期間 1995年10月16日～12月27日
調査面積 約1,500m²
担当者 萩原孝一・田口明子

山梨県の北西部、長野県との境にある八ヶ岳。その東南麓の緩斜面には南北に尾根と谷が細長く交互に走る。その一つの尾根上に位置する本遺跡は標高約675mを測る。

本遺跡は平成6年度に試掘調査が行われ、縄文時代の竪穴住居跡3軒を確認している。また、多数の縄文時代中期中葉から後葉と思われる土器が出土している。昭和62年度、町が行った遺跡分布調査の折に「海道前C遺跡」と名付けられた。

調査の結果、縄文時代中期中葉から後葉にかけての竪穴住居跡約20軒、土坑約66基、屋外埋甕1基、焼土跡2基が確認された。これらの遺構は調査区の北側3分の2くらいに集中している。遺物も遺構の集中する北側に多く出土した。中期中葉から後葉にかけての土器、石器、土偶などである。

遺構までの確認面は現地表より約30cm～40cmと浅い。また、遺構の切り合いが多く正確な遺構数の把握と時期の確定が今後の課題として残される。

調査の成果の中で、特筆すべきは土坑内より出土した人面装飾付土器についてである。それは底部を欠損しているが、遺存状態は良好と言える。土坑は、長径約1.2m、短径約1.0m、遺構確認からの深さ約1.1mの平面椭円形を量する。人面装飾付土器はその底より約10cm上に逆位に出土し、同レベルにはほぼ完形の深鉢1個体が横位に出土する。そして、深鉢の上に被さるように口縁部の欠けた浅鉢が逆位にあり、その横には下部を欠損した有頭の石棒が倒立していた。

今後、各遺構・遺物の詳細な検討を重ねて、集落の全体像に近づきたいと思う。



海道前C遺跡 位置図



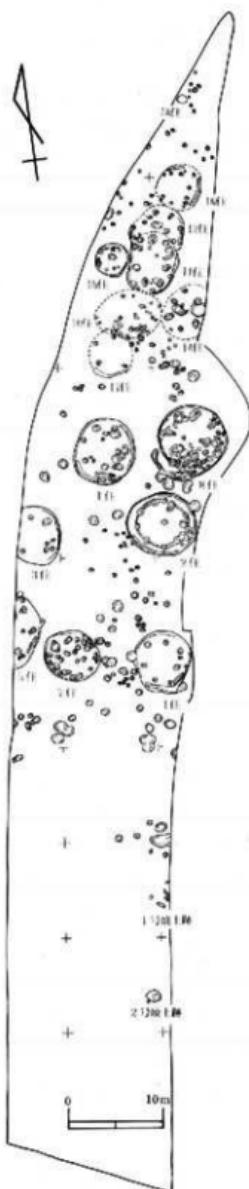
全景（北から）



1号住居跡調査風景



人面装飾付土器
土器部=現高約26.4cm、口径約28.5cm胴部最大径約30.5cm
人面部=最大高約12.0cm、最大幅約16.4cm



全体図 (1/600)

19. 談合坂遺跡

所在 地 北都留郡上野原町新田談合坂4967他

事 業 名 中央自動車道富士吉田線改築

(上野原町～大月市)工事

調査期間 1995年12月5日～1996年1月31日

調査面積 1,600m²

担 当 者 中山誠二・保坂和博

本遺跡は、中央自動車道上り線の談合坂サービスエリアの東側に位置し、標高390m～400mを測る。付近は標高1137mの扇山東麓部の狭い尾根と深い沢が交互に発達した険しい地形となっている。本遺跡はその一つの尾根の南傾斜面に立地し、その西側は深い沢が開析する。

遺跡範囲確認調査では、まずこの尾根部を中心として幅1m、長さ10m前後のトレソチを12本設定し、遺構、遺物の確認を行った。その結果、尾根の鞍部にはなにも認めらず、鞍部から南西に降りる斜面地に縄文時代の遺構が認められたため、12月11日からその地点の全面を本調査を行った。

調査の結果、縄文時代前期、中期の竪穴住居址12軒、土坑25基、集石遺構4基が検出された。遺跡は本来谷部に向かってさらに西側に展開していたと思われるが、その後の谷の開析によってえぐりとられ、現在は崖となっている。この地点は平均斜度が17%前後の斜面地で、ほとんどの住居址の壁が谷側で削平されているために、半月型の平面形で確認される。住居址は、一辊3.5～5mの方形または梢円形のものが多く、内部に炉、柱穴の他、壁周溝が巡るものもある。炉は、地床炉と埋甕炉が存在する。特に1号住居址、8号住居址は前期前半の埋甕炉として特筆される。土坑は長軸が1～2mの梢円形のものが多く、断面形は浅い皿状のものと、深い円筒形を持つものなどいくつかの類型が認められる。4基の集石は、平面形が直径1m前後の円形プランを示し、内部に粘板岩様の堆積岩が集中し土坑下部に炭化した面が認められる。各遺構の時期は、今後検討を要するが、10号住居址、1号埋甕、25号土坑で中期中葉の土器が出土している以外は、大半が前期前半に比定されるものと考えられる。

遺物は、土器の他、石鏃、石匙、打製石斧などの石器がコンテナ30箱ほど出土している。また、住居址の覆土からは集石遺構内の石材と同じ石塊が相当数出土し、打製石斧などの石器加工にかかる遺物とも推定される。

本遺跡は、該期の遺跡立地や県東部の集落様相を知る上で重要な資料である。



談合坂遺跡 位置図

20. 長峰砦遺跡

所在 地 北都留郡上野原町大門1108他
事 業 名 中央自動車道富士吉田線改築
(上野原町～大月市)
調査期間 1995年9月1日～1995年11月13日
調査面積 5,000m²
担当者 中山誠二・保坂和博

本遺跡は、中央自動車道下り線の談合坂サービスエリアの東側約2kmの地点に位置し、標高340m～370mを測る。付近は仲間川の南側にそって発達する狭く長い尾根上にあたり、江戸時代の甲州街道が通過する要衝の地にある。

遺跡範囲は中央自動車道のショートカット区間の長さ約700m、幅40m程の地域であるが、本年度の調査では大門地区的買収地域の2ヵ所で調査を行った。調査面積は、A地区が約2,000m²、B地区が3,000m²である。

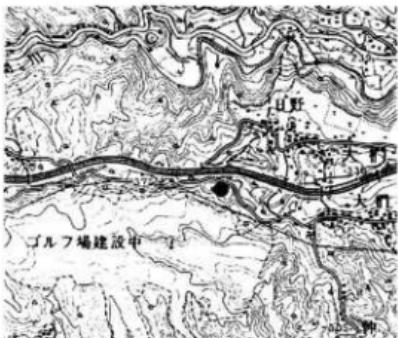
A地区的調査は、まず立ち木の伐採が終了した時点で現地形の1/200の航空測量図を作成し、尾根部と調査区東側の緩やかなテラス面の調査を行った。

調査の結果、尾根部の西側で炭化材が充填された浅い土坑が1基確認された。また、尾根の北側斜面を削平して幅1m余の道が検出されている。この道は旧甲州街道のものと地元では伝えられるが、今回の調査でそれを実証する遺物等は発見されなかった。尾根部から東に広がる平坦面は、人为的に削平されていることが明らかとなったが、長峰砦の築造年代である戦国期の遺物は認められず、砦の施設とは考え難い。

A地区的東にあるB地区的調査では、調査範囲を全面的に調査を行った。調査の結果、縄文時代の土器片と黒曜石、近世の陶磁器が数点検出されたが、確認面とした部分の大半がすでに擾乱を受けていることが判明した。この確認面の直下層は、付近の山を形成する基盤層が認められ、人为的な遺構は検出されなかった。

長峰砦の主体は本年度調査区の西側に展開し、すでにその一部は中央自動車道によって破壊されているが、それに連続する土塁や曲輪状の遺構が地表観察から窺える。また、今回のA地区東側の丸山地区にも土塁および帯曲輪状のテラス面が認められている。今後、これらの地域を含めて総合的に調査を進める必要がある。

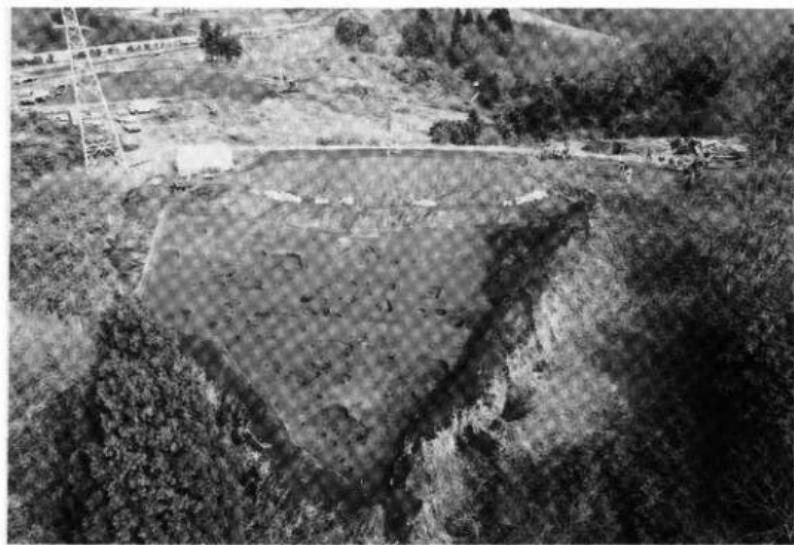
この他、一連の事業では、矢坪遺跡、南大浜遺跡の調査を行った。前者では、近世の溝1本、後者では縄文時代早期と中期の文化層が2面検出されている。



長峰砦遺跡 位置図



長峰峠遺跡遠影



該合坂遺跡調査区全影

21. 三ヶ所遺跡

所在地 山梨市上之割字八王子380・3

81他

事業名 県営東山梨ぬくもり団地建設事業

調査期間 1995年5月28日～9月12日

調査面積 3,000m²

担当者 坂本美夫・熊谷栄二

本遺跡は、笛吹川とその支流によって形成された扇状地の扇端部に位置し、山梨市の東端にあたる。JR中央線東山梨駅、国宝の仏殿を擁する臨済宗「清白寺」、そして県指定の史跡「連方屋敷」に囲まれた区域のはば中央に位置し、標高は368mを測る。

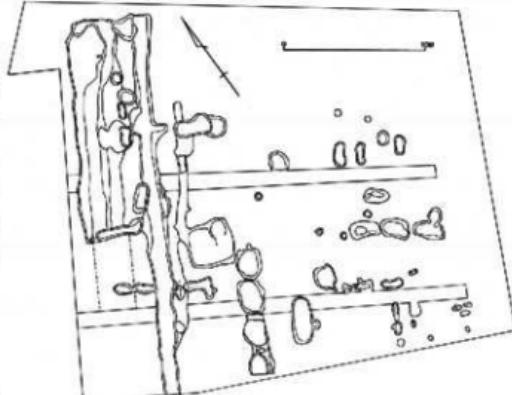
当地内における県営東山梨ぬくもり団地建設事業に伴い、平成6年度にまず試掘調査を行い、その対象範囲18,000m²に計44本のトレンチを設定した。その結果、縄文前期末、平安末～中世の土器片約80点、及び黒曜石2点、古銭1点が出土、そのほとんどが調査区の中央及び南端部に遺構をともなって出土したことから、本調査は上記該当区域の約3,000m²を対象に行った。なお昭和52年度の分布調査によって東隣の山梨市三ヶ所に同名の遺跡が確認されており、本遺跡はこれに隣接し、その端部と考えられるため「三ヶ所遺跡」と命名された。

本調査区はA～Cの3区を設定。結果、A区から土坑57基、竪穴式土坑1基、溝3本を確認した。またこれらの遺構を中心として約500点の土器片などを検出、多くは縄文時代末の諸磯b式期のものである。竪穴式土坑については出土した遺物から平安時代の住居址とも考えられるが、かまどの状態も非常に悪く住居とは特定できない。土坑のほとんどは戦後のものと思われる。溝は3本とも調査区西側を南北に走り、1号・2号溝は南端できりりとある。この1・2号溝はさらにB区に延びる。そのB区はこの1・2号溝以外には遺構は確認できなかった。また、C区は遺構遺物とも確認することができなかった。



三ヶ所遺跡 位置図

(三ヶ所遺跡全体図 A区→)



22. 塩瀬下原遺跡

所在 地 大月市梁川町塩瀬842-2番地外

事 業 名 桂川流域下水道終末処理場建設

調査期間 1995年5月15日～3月29日

調査面積 5,065m²

担 当 者 澤登正仁・吉岡弘樹

忍野村の忍野八海を源とし相模湾に下る桂川は、大月市地内においては国道20号線に沿う様に流下し、右岸に大規模な河岸段丘を形成している。この段丘中位（海拔約237.5m）に塩瀬

下原遺跡が存在する。この周辺には今まで他遺跡の存在は確認されていないが、対岸に武田氏の狼煙台跡とされる御前山が鎮座し遺跡地を凝視しており、当地が戦国期の連絡中継地であったことがうかがえる。

遺跡は、第一次試掘（94年1月17日～24日）によって発見されたもので、20,000m²以上に渡って2～3面の文化層に縄文時代中期を主体とした集落・土壙群等が展開されることが推測されていた。発掘調査の結果、検出された遺構・遺物は以下のとおりである。

【I区】 2面の文化層が確認されたものの、調査区の東側1/3程は桂川に合流する沢の影響を受け削平されていた。第1面は表土直下にあるため耕作による擾乱などを多く受けている層である。検出された遺構は3.9×3.6mの規模を持つ平安時代堅穴住居1軒・土壙10基である。また、第2面からは縄文時代中期の配石4基・屋外炉50基・石器製作址1基・土壙10基・集石土壙1基が検出された。配石は自然礫層を利用したもので調査区の西側に広がり、4箇所に屋外炉を設置し、各所に石皿（木製品を含む）をも配している。また石器製作址は調査区北側にあり、3.5×3.0m・深さ約40cmの規模を呈している。

遺物は、縄文時代中期中葉から末葉までの土器各種、石器類（打製石斧・磨製石斧・石鏃・スクレイパー・石核など）が出土している。

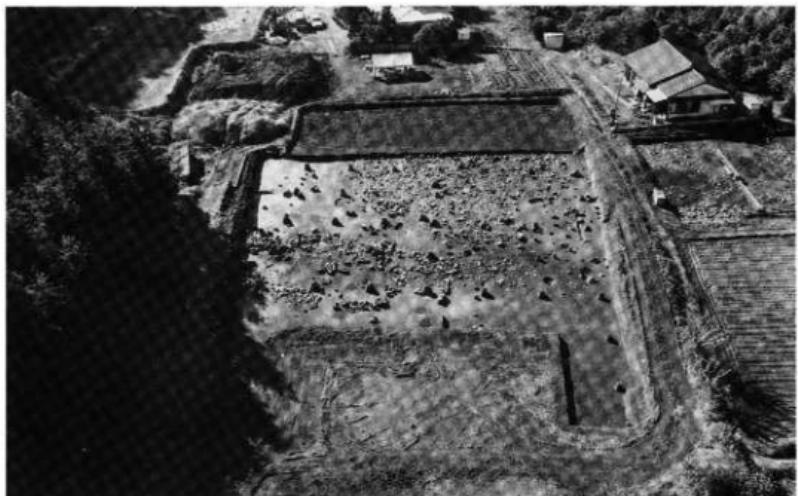
【II区】 I区の北側に位置しており、縄文時代中期後半の住居址1軒・土壙20基・屋外炉3基・埋甕1基が検出された。

遺物は、I区同様に縄文時代中期中葉から末葉までの土器各種、石器類が出土している。この他、特殊遺物として釣手土器が1点検出されている。

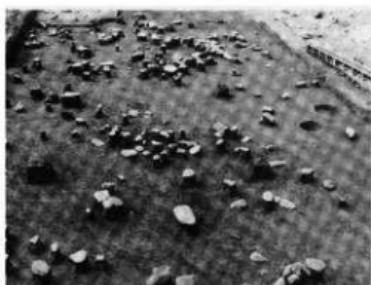
これらの結果から、河岸段丘の中位部分を利用した配石が広範囲に確認できたことから、集落の東側縁辺部において祭祀を実施した可能性が強まった。また、来年度も実施されるであろう当遺跡の発掘調査で得られるであろう成果を加味し検討を重ねることで、今まで縄文時代遺跡の希薄であった大月市梁川周辺での状況が明らかとなってくることであろう。



塩瀬下原遺跡 位置図



調査区全景（東側より）



配石検出状況



4号屋外炉検出状況



石器製作址検出状況



調査風景

23. 八ヶ岳東南麓ほか遺跡分布調査

23-1 (仮)高標高試験地建設予定地試掘調査

所 在 地 北巨摩郡高根町東井手字船山1529-

1他

事 業 名 高標高試験地建設

調査期間 1995年4月24日

調査面積 150m² (10,000m²)

担 当 者 森原明廣・石神孝子

建設予定面積10,000m²に対し、調査区に1.5

m×10~20mのトレンチを13箇所設定し、重機

による掘り下げを行った。地山層上層部であると思われる疊層までを掘り下げたが、遺構・遺物の検出はできなかった。

23-2 国道300号線（身延バイパス）試掘調査

所 在 地 南巨摩郡身延町梅平字本田2916他

事 業 名 身延バイパス建設

調査期間 1995年4月26・27日

調査面積 32m² (1,200m²)

担 当 者 森原明廣・石神孝子

用地買収が完了している予定地において試掘による確認調査を行った。調査区は既存の農道に沿って南北5地点にわたりており1箇所につき、1m×5mのトレンチを1~2箇所設定し、人力により掘り下げを行った。

その結果南側4地点の調査区においては擾乱が著しく、遺構・遺物の検出を認めることはできなかつたが、北側の調査区トレンチより建物跡と考えられる遺構の一部と陶磁器片が検出された。この調査区の南側には身延山久遠寺の支院鏡円坊が、付近には南部氏館推定地が所在するなどの理由から、本遺跡は南部氏と関連のある遺跡であるとも考えられる。そのため今後本調査の必要があると判断される。



八ヶ岳東南麓遺跡 位置図



国道300号線（身延バイパス） 位置図

八ヶ岳東南麓遺跡詳細分布調査

23-3 峡中農業改良普及センター試掘調査

所在地 中巨摩郡檜形町沢登993-1他

事業名 峡中農業改良普及センター・櫛形支所
移転

調査期間 1995年6月14・15日

調査面積 20m² (750m²)

担当者 森原明廣・石神孝子

調査は御動使川の右岸の扇状地、南扇端部上を行った。1m×5mのトレンチを調査区内に

4ヵ所設定し、それぞれ重機によって2m程度掘り下げを行った。その結果御動使川の度重なる氾濫のためであると思われる何層もの砂疊層が細かく堆積しており、遺構・遺物の出土は認められなかった。なお地質ボーリング調査の結果、この砂疊層は数十メートル堆積していることも確認されているため、本調査の必要はないと判断される。

23-4 県営富沢団地建設予定地試掘調査

所在地 南巨摩郡富沢町富士字平2850-1他

事業名 県営富沢団地建設

調査期間 1995年8月1日

調査面積 10m² (6,260m²)

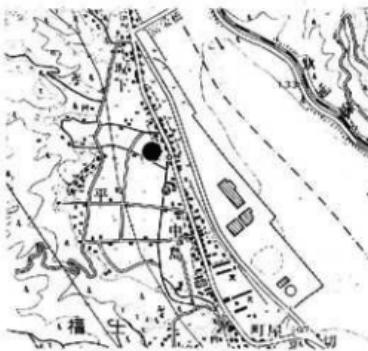
担当者 森原明廣・石神孝子

事業対象面積全域が未買収であったため、地権者の承諾が得られた畠地についてのみ調査区の西端2箇所に1m×5mのトレンチを設定した。重機の併用が不可能であったため全て人力により掘り下げを行った。

その結果いずれのトレンチからも深さ1.2m程度で砂層が確認され、本調査区が富士川右岸の河岸段丘上に位置していることと合わせて、地盤の形成に富士川の影響があったことを伺わせている。なお、遺構・遺物の出土は見られず、遺跡の存在は認められない。



峡中農業改良普及センター 位置図



県営富沢団地建設予定地 位置図

23-5 御坂バイパス試掘調査

所在地 東八代郡御坂町上黒駒地内
事業名 国道137号線御坂バイパス建設
調査期間 1995年7月17日～7月28日

8月10日

1996年1月24日～2月7日

調査面積 900m² (50,000m²)

担当者 森原明廣 石神孝子 熊谷栄二 宮里学

国道137号線御坂バイパスは、現137号線の西侧に建設が予定されている。

建設予定には、周知の遺跡として桂野大道上

地内に桂野遺跡が、小丸・稻荷地内には駒留小丸遺跡が存在する。従って、今回の試掘調査では、両遺跡の存在を再確認し、遺跡の範囲を確定することに目的をもった。

方法は、表面採集から行い、1m×10mを基準とした試掘坑を任意に設定し、重機及び人力で表土から掘り下げる工程を行った。結果として、桂野遺跡において縄文時代中期後半の土器・石器及び該期の住居跡10数軒、土坑30基以上が確認された。駒留小丸遺跡について若干の遺物が出土した程度である。このことから、桂野遺跡については本調査の必要があると判断される。駒留小丸遺跡については今後の試掘・立ち会い調査で判断するものである。

23-6 双葉町竜地地内試掘調査

所在地 北巨摩郡双葉町竜地字古氏神、鳥ノ池地内
事業名 山梨県住宅供給公社・鳥ノ池ニュータウン住宅地建設
調査期間 1996年1月22日～2月16日
調査面積 2,133m² (80000m²)
担当者 高野玄明・川手昌英

前年度からの未調査分約80000m²について試掘トレンチを85本設定し、トレンチ内部の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。今回の調査では、遺構・遺物はほとんど検出されてい

ないが、長さ約46.0m、幅1.5m～2.1m、深さ調査0.12m～0.30mを測る溝状遺構が検出された。溝状遺構は、覆土中から遺物が確認され、土師質土器片や陶器片、黒曜石製石器や黒曜石破片などが20点ほど出土している。溝の性格や遺物の性質を確認するための調査を実施したところ、石器などは縄文時代の遺物と考えられるが、土師質土器や陶器は、近世の所産と考えられる。これらの遺物は周囲からの流れ込みによるものと考えられる。溝状遺構の性格については、地境の溝の可能性が示唆される。



御坂バイパス 位置図



双葉町竜地地内 位置図

23-7 県営分譲住宅試掘調査（沖田遺跡）
所在地 東山梨郡勝沼町等々力2397-1他
事業名 県営分譲住宅「四季の里勝沼」建設
調査期間 1次 1995年8月7日・8日
2次 1996年2月5日～1996年3月
5日
調査面積 1,246m² (29,500m²)
担当者 坂本美夫・熊谷栄二

本調査区勝沼町の西部に位置し、甲府盆地の最東端にあたる平坦地であり、調査区の南側には田草川が西流する。調査は、2次に分けて行い、1次調査は調査区域西側8箇所にトレンチを設定、2次調査は重機により63箇所に約1m×20m前後のトレンチを設定した後、人力により精査を行った。結果、ほとんどのトレンチからは遺構・遺物とも確認できなかったが、調査区中央の14号トレンチからは遺構ではないかと考えられる落ち込みを確認、周辺を掘り下げたところ縄文時代中期後半の曾利期のものと思われる石圓壙甕炉を伴った、住居址1軒を確認した。住居の規模は直径約5.5mである。遺物は炉以外ではほとんど検出できず、また礫が非常に多く、柱穴の確認に難渋した。

23-8 一般国道411号線試掘調査
所在地 塩山市赤尾693他
調査期間 1996年1月29日～2月2日
調査面積 247m² (5,224m²)
担当者 小野正文、小泉 敬

用地買収が完了している道路用地内に、地下埋設物の状況を考慮しながら南側より東西方向に6本、南北方向に2本のトレンチを設定し、重機による表土の掘削を行った後、20～80cmの深さを人力によって精査した。

その結果、調査区南側からのA～Fトレンチでは縄文時代早期・古墳時代・平安時代の遺物が検出された。遺構としては、古墳時代前期のものを含む住居と思われるプラン2軒と、時期不明の溝4条、ピット5基を検出した。なお調査区北側に関しては、Gトレンチからはなにも検出されず、Hトレンチは地表下80cm程度で礫層が堆積し、礫の間から平安時代の摩滅した土器片が検出されていることから、遺跡の範囲は、調査対象地東側の墓地に接して予定道路を横断する市道より南側の約3,700m²程度と見られる。遺跡の名称は下西畠遺跡である。



県営分譲住宅 位置図



一般国道411号線 位置図

23-9 甲西バイパス

所在地 南巨摩郡増穂町大門～青柳

事業名 一般国道52号改築

調査期間 1996年2月5日～2月16日

調査面積 428m² (35200m²)

担当者 新津 健、高野政文

甲西バイパス建設予定地の内、増穂町内の計画地について遺跡の所在確認調査を実施した。調査は、重機により幅1.2m、長さ20m程のトレンチを掘削し、用地の関係から重機が入れない箇所については、人力により2m四方を基本としたトレンチ調査を行った。その結果2箇所の遺跡が確認された。

1 町屋口遺跡 地表下90cmから1mの深さに水田の畦畔が確認された。畦畔の間隔から10間規模の水田であることが推測される。この面からは江戸時代後期の陶磁器や金属製品が出土した。この遺跡付近には富士川舟運の青柳河岸があったとされる。絵図からみると本遺跡は、この河岸に至る道筋に当たっており重要な遺跡であると考えられる。下層には中世の層も推測できる。

2 藤田池遺跡 地表下40cmに安定した粘土面があり、ここから水田面に残されたと見られる足跡群が確認された。出土した陶磁器から江戸時代のものとみられる。また、5.5m下からは中世後半の天目茶碗や、志野碗破片が出土した。

23-10 国道141号箕輪バイパス試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町箕輪481

事業名 国道141号箕輪バイパス建設工事

調査期間 1995年9月20・21日

調査面積 約73m² (約300m²)

担当者 萩原孝一・田口明子

今年度は、昨年度調査した箕輪横森地区の住宅地跡部分について実施した。ここは、箕輪新町交差点より西へ約250mの、県道万年橋・長坂線南側に位置している。標高は約725mを測る。

調査は幅約1.5m、長さ約15～18mのトレンチを3箇所設定し、重機による発掘、及び人力による精査を行った。調査の結果、本地点は、現地表より約1m下まで後世の擾乱を受けており、その直下はローム層となる。遺物の存在は認められなかった。



甲西バイパス 位置図



国道141号箕輪バイパス試掘調査 位置図

23-11 富士川護岸整備事業

所在地 南巨摩郡鰐沢町

調査期間 1995年10月25日・26日

調査面積 100m² (3,000m²)

担当者 新津 健

建設省が行う富士川護岸整備工事に伴う試掘調査。この一帯はかつての富士川舟運に関わる鰐沢河岸があったとされる地域である。河岸そのものはこれまでの河川改修等の工事により相当原状が変わってしまったものとされるが、今回の調査は甲府代官所の米蔵があったと伝えられる区域である。東を富士川本流、西を皆川に挟まれた土手上約3000m²を対象に、トレンチを設定し重機により排土しながら調査を行った。この結果、深さ150cm前後の層から「寛永通宝」や「土器破片」が出土した。この層は堅くしまっており、しかも赤く焼けた部分もあることから江戸時代の生活面と考えられ、幅25m・長さ40mほどの範囲に広がっているものと推測される。なお、この層に至るまでも陶磁器が多く出土する面が何層か認められた。



富士川護岸整備事業 位置図

23-12 須玉・八ヶ岳公園線試掘調査

所在地 北巨摩郡高根町清里念場原地内

事業名 須玉・八ヶ岳公園線道路建設事業

調査期間 1996年3月4日～6日

調査面積 約970m² (90,000m²)

担当者 野代幸和・田口明子

萩原孝一・村松佳幸

調査は、トンネル予定地以外の道路建設用地に幅約2m、長さ3~80mのトレンチを地形等の状況を勘案して、2箇所設定し、重機による発掘及び、人力による精査を行った。遺物の包

含層は確認できなかったが、遺構は黒褐色系土層下のローム面に認められ、2箇所のトレンチより隅丸長方形（小判形）を呈する陥し穴（直径約2m×短径約1m×深さ約0.8m）を一基ずつ発見することができた。そのうちの一基について、試験的に掘り下げた結果、坑底部に坑状のものを設定したと考えられる小ビット（径約5cm）が存在した。形態的に縄文時代の所産と考えられる。この場所は、清里の森第一遺跡から続く南側斜面の尾根上で、約3000m²程度が遺跡の対象範囲と考えられ、事前調査の必要性がある。その他の地区では、明らかな人為的遺構および遺物は認められなかった。なお、工区西側には未調査の部分があるため、事前の試掘調査が必要である。



須玉・八ヶ岳公園線 位置図

24. 十五所遺跡南試掘調査

所在地 中巨摩郡柳ヶ瀬町十五所

調査期間 1995年11月21日～29日

調査面積 810m²

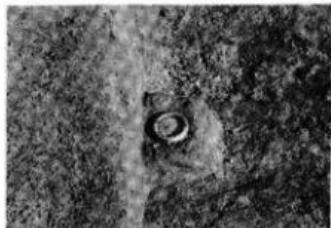
担当者 木田明訓、大庭勝

調査方法は調査該当区域内に、幅1.5m×長さ30mのトレンチ18本を設定した。重機で掘削した後、作業員によって清掃し土層断面を観察した。その結果、おそらく方形周溝墓のものと思われる溝状遺跡跡を示す遺構が16本、住居跡

らしき遺構が5軒、弥生時代後期のものと思われる土器片が確認された。当調査該当区域は北に方形周溝墓9基が確認された十五所遺跡、南には集落跡や水田跡が発見された村前東遺跡がある。過去この区域は用地未買収のため試掘調査が実施されず、遺跡・遺構の有無が不明範囲であったが、今回の調査で遺構の存在が明らかになった。遺構の時期も十五所遺跡・村前東遺跡とほぼ同時期であろうと考えられる。よって両遺跡の関連から当該区域も本調査を必要とすると思われる。



十五所遺跡南試掘調査 位置図



23-6 溝内遺物出土状況



23-7 炉址



23-6 溝状遺構



23-7 堅穴住居跡

III 県内の概況

1. 発掘調査 今年度の発掘調査件数は155件となっており、昨年より23件増えている。内訳は緊急調査146件、学術調査9件である。調査件数はここ数年100件を越えている状況であるが、今年度は150件をはるかに越える件数となった。

発掘調査の原因別は、道路建設・改良30件、住宅建設33件、宅地造成15件、農業開拓10件、公園造成7件、工場3件、自然崩壊3件、学校2件、電気2件、区画整理2件で、またその他開発が25件、その他建物も16件となる。また、学術調査は9件となっている。

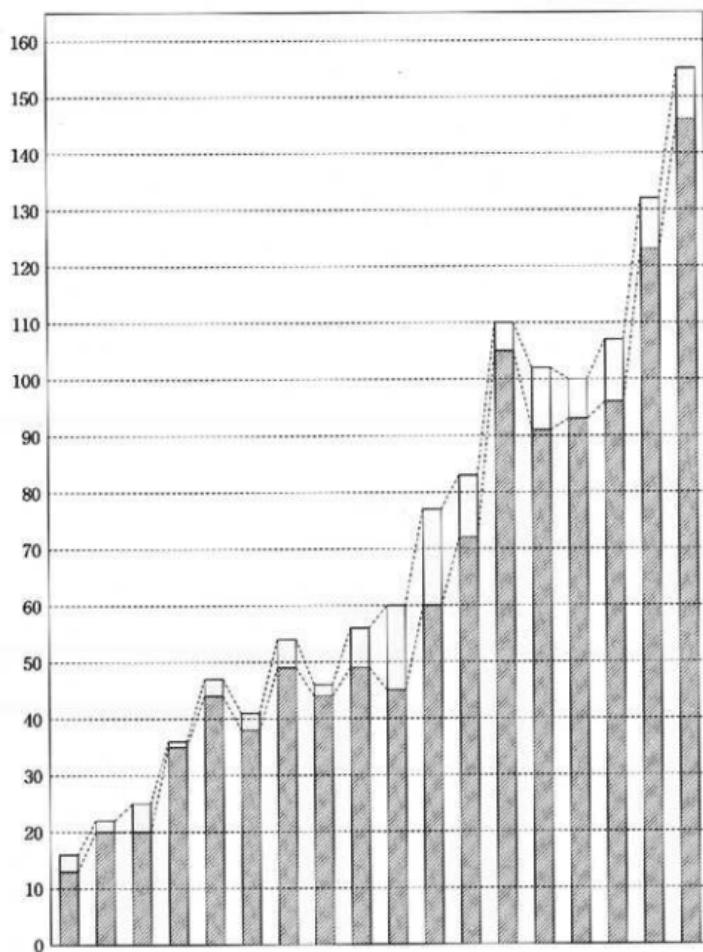
2. 遺跡の保存整備 遺跡保存整備にかかる調査は山梨県教育委員会による甲府城、山梨県森林公園 金川の森や、勝沼町教育委員会による勝沼氏館跡、三珠町教育委員会による大塚古墳の整備事業などが上げられる。

3. 調査体制 埋蔵文化財専任職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）については、県が学術文化課2名、埋蔵文化財センター34名（非常勤嘱託1名）、考古博物館2名、また、阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査支援職員として6月から1名派遣されている。市町村では甲府市4名、御坂町3名、大月市・富士吉田市・須玉町・八代町・一宮町に各2名、韮崎市・都留市・塩山市・山梨市・春日居町・勝沼町・牧丘町・石和町・中道町・豊富村・三珠町・増穂町・櫛形町・甲西町・白根町・敷島町・竜王町・双葉町・小渊沢町・大泉村長坂町・明野村・高根町・武川村・白州町・上野原町に各1名、また、若草町と昭和町の共同配置で1名の合計82名となっており、64市町村のうち35市町村に配置されている。発掘調査の担当職員配置は、年々充実しているが発掘件数の増加により、担当職員1人あたりの事業量が多くなっている傾向が続いているため、整理体制が不十分となり、報告書の刊行や出土遺物の活用が問題となる傾向は続いている。

4. 発掘調査の成果 縄文時代では、高根町社口遺跡から縄文時代早期の表裏繩文が施される資料がまとまって確認され、同町海道前C遺跡から顔面把手付深鉢が、長坂町酒呑場遺跡から縄文時代前期の鉢形土器の内面に漆による文様が見られ、ともに興味深い資料である。弥生時代～古墳時代にかけて、明野村下大内遺跡で、弥生時代前期後半の条痕文が施された人形の上器や、弥生中期の再葬墓の好資料が確認されている。甲西バイパス関係の村前東遺跡や十五所遺跡では、古墳時代前期の大集落や弥生時代後期の方形周溝墓が検出されている。また、甲府市の塙部遺跡では古墳時代初頭の方形周溝墓からヒスイの勾玉や馬の歯等が検出され、また平安時代の川跡から木製の人形2点が出土し、律令祭祀の一端が明らかとなった。古墳時代以降の遺跡では、大月市の御所遺跡の平安時代住居跡からの出土石器の中に金粉と水銀朱が付着していることがわかり、アマルガム鍍金にかかる遺物として注目される。また、一宮町西田町遺跡からは、本県では初めての鎌倉期の屋敷跡であることが明らかになり、青磁・白磁や石鍋など貴重な出土品が見られた。甲府市では国史跡武田氏館跡で進められてきた確認調査の中で、味噌曲輪・帯で武田氏時代の遺構・遺物が確認され、全貌の解明に向け調査の進展に注目される。

山梨県埋蔵文化財発掘調査件数推移

(単位名: 件数)



	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95
学術調査	3	2	5	1	3	3	5	2	7	15	17	11	5	11	7	11	9	9
緊急調査	13	20	20	35	44	38	49	44	49	45	60	72	105	91	93	96	123	146
合計	16	22	25	36	47	41	54	46	56	60	77	83	110	102	100	107	132	155

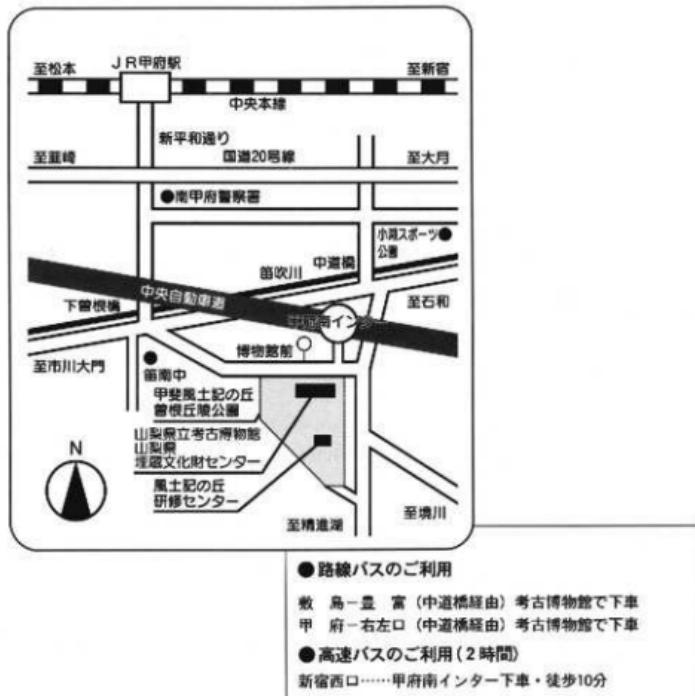
1995年度発掘調査一覧表

番号	通　　路	名	所	在	地	施設の種類	面積(㎡)	施設の面積	面積の時代	調　　査　　日　　期	調　　査　　主　　体	調　　査　　場　　所
1	+十石井	新井	川口東部影町十五年半斗原175	新井	方野原溝渠	古墳	道能	道能	道能	95.4.10~	12.27	山梨県教育委員会
2	新井道	牛只瀬新井町	牛只瀬新井町	牛只瀬新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
3	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
4	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
5	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
6	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
7	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
8	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
9	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
10	新井道	新井	新井	新井	水田	古墳	八集	八集	八集	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
11	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
12	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
13	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
14	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
15	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
16	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
17	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
18	大字道	大字道	大字道	大字道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
19	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	(ナシ)	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
20	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
21	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
22	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
23	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
24	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
25	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
26	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
27	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
28	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
29	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
30	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
31	天原道	天原道	天原道	天原道	水田	古墳	中世	中世	中世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
32	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
33	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
34	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
35	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
36	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
37	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会
38	新井道	新井道	新井道	新井道	水田	古墳	近世	近世	近世	95.6.1~	6.30	山梨県教育委員会

番号	通　　路　名	所　　在　　地	施設(市)	施設の種類	施設の時代	調　　査　　日　　期	調　　査　　委　　員
39	大門通	甲府市銀座町460	266 集合場	新潟～中世	甲府市教育委員会	95' 7. 1～	7.15
40	片寄前通	中巨摩郡御坂町令993-1地	750	古墳	山梨県教育委員会	95' 6.13～	7.13
41	鏡野社古墳	東八代郡入生、色村御坂町747	1490 小塙	古墳	八代町教育委員会	95' 6.26～	6.30
42	鏡ヶ谷御坂通	東八代郡入生、色村御坂町516-45地	7 桶狭霧跡	中世	神川原町教育委員会	95' 5.30～	5.31
43	利尻通	東八代郡入生、色村御坂町1925地	120 敷石地	古墳～中世	八代町教育委員会	95' 6.19～	6.30
44	本郷通	甲府市北山5-2689-1	1220 集合場	織文～中世	甲府市教育委員会	95' 10.11～	10.16
45	持家院	中巨摩郡石山町中条新地657	100 近世	古墳	吉田町教育委員会	95' 7. 6～	7.13
46	八人小川通	中巨摩郡石山町小包原37地	11000 集落跡	織文～中世	明野町教育委員会	95' 6.20～	6.31
47	片寄通	東八代郡入生、色村御坂町137地	75 敷石地	古墳～近世	八代町教育委員会	95' 7. 3～	7. 7
48	鳴尾山平道	東八代郡入生、色村御坂町5195	60 休憩所	織文～古墳	鳴尾村教育委員会	95' 7.10～	7.31
49	高宕寺跡	西富士田日食新地1-1	100 集落跡	織文	都留市教育委員会	95' 7.20～	9.31
50	白糸通	北巨摩郡忍足町御坂新野字西上野原167-5	500 その他	近世	山梨県教育委員会	95' 7.10～	7.29
51	通水道通	東八代郡入生町御坂分水路	600 敷石地	奈良～平安	一宮町教育委員会	95' 7.20～	8.20
52	新井谷通	中巨摩郡忍足町御坂新野字西上野原1-1	400 休憩所	中世～近世	鳴尾村教育委員会	95' 9. 1～	9.31
53	横谷通	中巨摩郡忍足町御坂新野字西上野原1-2	130 休憩所	織文～古墳	吳羽町教育委員会	95' 9. 1～	9.31
54	甲州街道	甲州街道新井5-1820-5	10 休憩所	織文～中世	甲府市教育委員会	95' 8.18	
55	かづさ通	中巨摩郡御坂町御坂新野577地	495 集落跡	古墳	明和町教育委員会	95' 8.17～	8.17
56	乙ノ谷通	東八代郡入生町御坂今金山9-2	290 集落跡	奈良	奥州町教育委員会	95' 8.14～	8.15
57	内力塚2通	中巨摩郡忍足町御坂内力塚1647	495 敷石地	奈良～平安	都留市教育委員会	95' 9. 1～	12.27
58	箱ヶ谷7丁目通	甲府市御坂5-11-20地	495 敷石地	古墳	甲府市教育委員会	95' 8.26～	9.30
59	人見通	大月市大字9-11-20地	490 休憩所	中世	鳴尾村教育委員会	95' 9. 1～	12.22
60	名張通	東八代郡御坂町御坂新野字中市666-1地	3556 古墳	古墳	山梨県教育委員会	95' 9. 5～	9.14
61	足利通	足利市御坂町御坂新野字中市108地	5000 休憩所	中世～近世	都留市教育委員会	95' 9. 1～	12.2
62	山田通	東八代郡御坂町二ノ宮小治715-1地	2371 集落跡	古墳	都留市教育委員会	95' 9. 7～	9.12
63	阿賀家古戻戸	東八代郡入生町字原ノ前1689-1地	500 古墳	古墳	山梨県教育委員会	95' 8.28～	9.31
64	内林通	東八代郡入生町御坂新野字御坂1062	400 その他墓跡	五世	山梨県教育委員会	95' 8.28～	9.31
65	甲ノ谷通	足利市御坂町御坂新野字御坂1905-1	1000 休憩所	織文	都留市教育委員会	95' 9. 20～	12.29
66	大里通	東八代郡入生町御坂新野字御坂1077地	800 休憩所	織文、竹筒	鳴尾村教育委員会	95' 9. 11～	11. 2
67	長所通	東八代郡入生町御坂新野字御坂1087-1地	762 集落跡	古墳	八代町教育委員会	95' 9. 11～	10.31
68	新丸通	甲府市御坂町542-2, 642-6	307 休憩所	中世	甲府市教育委員会	95' 10. 19	
69	真琴G通	東巨摩郡忍足町御坂367-125地	300 敷石地	織文	武州町教育委員会	95' 10. 1～	10.31
70	鶴鳴通	足立郡御坂大字御坂新野字御坂1905-20地	160 敷石地	織文	武州町教育委員会	95' 10. 23～	11.30
71	上原15通	北巨摩郡忍足町御坂新野字御坂1077地	30 地下式土坑	小世	鳴尾村教育委員会	95' 10. 16～	10.31
72	佐野通	八日市御坂町御坂1086地	520 休憩所	織文～中世	大月市教育委員会	95' 11. 10～	11.30
73	鳥沼通	北巨摩郡忍足町御坂136地	2700 休憩所	織文	都留市教育委員会	95' 10. 16～	12.26
74	一の牛糞通	墨山町御坂27地	2700 休憩所	古墳	山梨県教育委員会	95' 10. 11～	12.31
75	三ツ原通	北巨摩郡忍足町御坂367-72, 73, 74	200 休憩所	古墳	大泉町教育委員会	95' 9. 20～	9.31
76	向原16通	北巨摩郡忍足町御坂1077地	200 古墳	古墳	武州町教育委員会	95' 10. 23～	10.31
77	市六通	東八代郡御坂町大字御坂新野字御坂1068, 670地	500 休憩所	織文～古墳	都留市教育委員会	95' 10. 25～	11.29

番号	通　名	所	在　施	面積(m ²)	測量の範囲	測量の時代	測　量　者	調　査　工　作	調　査　公　式
78	電線道路	甲府市御坂3丁目地内		500 他要地	生免地	平安	公次下水道清掃事務所	甲府市教育委員会	86' 6.12~ 7.10
79	他の未整地	甲府市御坂3丁目地内		500 敷地	古奥	1世~近世	同上	甲府市教育委員会	86' 11.1~96' 3.31
80	六角形敷地	東八代郡御坂町下野原552-1他		1000 敷地	古奥	古奥~近世	同上	山梨県教育委員会	86' 10.2~ 10.9
81	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-149地		288 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 10.16~ 10.27
82	甲府御坂町通路	甲府市御坂3丁目地内		285 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 10.9~ 11.13
83	甲府御坂町通路	甲府市御坂3-312地		166 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 10.9~ 10.11
84	甲府御坂町通路	甲府市御坂12-134地		66 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 10.11~ 10.18
85	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-360地		90 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
86	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-2-248		169 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
87	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-358		385 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
88	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-214		81 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
89	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-61		43 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
90	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-169		924 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.4
91	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-20		113 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.4~ 9.11
92	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-34		322 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 10.2~ 10.9
93	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-49		240 その他の測量	近世	その他の測量	同上	甲府市教育委員会	86' 9.11~ 9.14
94	甲府御坂町通路	甲府市御坂1-14		206 敷地	編文	近世	同上	甲府市教育委員会	86' 9.18~ 9.29
95	用竹(篠竹)道路	土樽町御坂上野原3288-2		450 敷地	編文	近世~平安	同上	1割町教育委員会	86' 11.17~ 12.31
96	敷地	土樽町御坂上野原3288-2		100 敷地	編文	近世~平安	同上	1割町教育委員会	86' 11.17~ 12.31
97	久保原通路	金行寺裏白州御坂上野原1-6765		30 佔地	編文	久保原庄	同上	1割町教育委員会	86' 11.1~96' 3.31
98	木田通路	東八代郡一宮町木田276 3		30 久保原庄	編文	久保原庄	同上	1割町教育委員会	86' 11.1~96' 3.31
99	木田通路	東八代郡一宮町木田332-3		30 久保原庄	編文	久保原庄	同上	1割町教育委員会	86' 11.1~96' 3.31
100	土坂通路	東八代郡一宮町木田332-3		160 丸井跡	合文	近世~平安	同上	1割町教育委員会	86' 12.1~96' 3.1
101	土坂通路	東八代郡一宮町木田332-3		300 改造地	合文	近世~平安	同上	1割町教育委員会	86' 12.1~96' 3.1
102	土坂通路	東八代郡一宮町木田332-3		200 古奥地	合文	近世~平安	同上	1割町教育委員会	86' 12.1~96' 3.16
103	木口通路	東八代郡一宮町木田332-1		680 佔地	編文	木口	同上	1割町教育委員会	86' 12.1~ 12.30
104	中野通路	東八代郡一宮町木田332-1		2000 余地	編文	中野	同上	1割町教育委員会	86' 12.4~96' 3.1
105	中野通路	東八代郡一宮町木田332-1		300 余地	合文	近世~近江	同上	1割町教育委員会	86' 12.4~96' 3.1
106	二之宮通路	東八代郡一宮町木田332-1		995 伸地	合文	二之宮	同上	1割町教育委員会	86' 1.8~ 1.10
107	四分半通路	東八代郡一宮町木田332-1		200 占地	合文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.10~ 2.29
108	小原通路	東八代郡一宮町木田332-1		3074 険地	編文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.19~ 3.29
109	石塚通路	東八代郡一宮町木田332-1		874 余地	編文	石塚	同上	1割町教育委員会	86' 1.16~ 1.19
110	東北通路	東八代郡一宮町木田332-1		400 敷地	編文	古奥	同上	1割町教育委員会	86' 1.22~ 3.31
111	音六子通路	甲府市御坂光子3-269-1		90 井戸跡	合文	近世~近江	同上	1割町教育委員会	86' 3.6~ 3.15
112	三段井通路	東八代郡御坂光子3-269-1		210 旗倒跡	合文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.17~ 3.31
113	池田通路	山梨縣市御坂1895		109 険地	編文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.25~ 2.9
114	網干通路	東八代郡御坂木原6-1-586地		90 敷地	編文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.17~ 3.31
115	下野通路	同上		100 険地	編文	通路	同上	1割町教育委員会	86' 1.29~ 2.2
116	寺坂通路	同上		180 異地	編文	古奥~平安、今御坂	同上	1割町教育委員会	86' 12.1~96' 3.31

番号	通名	所 在 地	地點(回)	施設の種類	施設の時代	現 在 の 状 況	調査主任者	調査委員会
117	西原通	東八代原通に接する今木字吉田町41	104 住居跡、古南跡	古糸、平安	古糸開拓	95' 12. 1~56' 3.31		
118	新野通	東八代原通坂上里町大字大字地内	15000 敷地、墓落跡	古糸、平安	古糸開拓	95' 1.25~	2.5	
119	鶴留小字通	東八代原通坂上里町大字大字地内	15000 敷地	古糸、平安	古糸開拓	95' 1.25~	2.5	
120	家の通	半竹山田3-1001	1600 敷地	古糸、平安	古糸開拓	95' 2. 1~	2.5	
121	小山C 通	小山身延原通引良登志663-1	400 敷地	小屋、近古	越前	95' 1.19~	9.29	
122	大元通	東八代原、高木字吉田坂上421 1	300 住居跡	繩文、近古	社会開拓、古墳沿	95' 1.29~	2.29	
123	東南原通	東八代原、吉田字東原265 1	100 住居跡	古糸、近古	沙田縣立古跡、神	95' 1.29~	2.29	
124	半原町分合通	東八代原、四日町東原267-1他	1500 敷地	小屋、近古	鳥取縣立古跡	95' 1.29~	2.29	
125	気原東・西通	東八代原、吉田東原19他	100 敷地	余生、近古	農業遺址	95' 1.29~	2.29	
126	天神前通	東八代原通坂上2-1028-3	454 敷地	山脚、平安	鶴見町教育委員会	96' 2. 7~	2.15	
127	大佐通	東八代原、吉田坂上2-1024	400 敷地	古糸、平安	御園町教育委員会	96' 1.30~	3.1	
128	上野原通	東八代原、吉田坂上2-1023-1	400 敷地	繩文、占居	中河内教育委員会	96' 2.26~	5.31	
129	大森下町	東八代原、吉田坂上2-1026他	200 十字	古墳	一保町教育委員会	96' 2.13~	3.31	
130	小原通	東八代原坂上町大屋町41他、148	200 住居跡	繩文	一保町教育委員会	96' 2.26~	3.25	
131	町の前通	東八代原坂上町大屋町8-2、8-3	1917 住居跡	古糸、平安	鶴見町教育委員会	96' 2.14~	2.20	
132	大平通	山形市鶴見町7-1右25-1	459 住居跡	古糸、平安	中野市教育委員会	95' 5. 1~56' 6. 1		
133	新舟通	東八代原八代原町第882-1他	105 住居跡	余生、古糸	水道院	96' 2.20~	2.29	
134	老松通	東八代原、吉田坂上2-1	4580 住居跡	繩文、平安	ミツベヒキシターリ建設	96' 3. 1~	7.31	
135	櫛原通	東八代原、吉田坂上2-1	1017 住居跡	古糸、平安	御園町教育委員会	96' 3. 6~	3.14	
136	谷・金谷	上白身原人見村付近762-1-2	10 流跡	古糸、古墳	大槻町教育委員会	96' 3. 4~	3.31	
137	以原八幡通	上白身原人見村付近3867-8	200 敷地	繩文	オートチャップ崎原	96' 3.11~	3.31	
138	御原通	上白身原人見村付近3142-1	45 古糸地	古糸、平安	武藏野町教育委員会	96' 3. 1~	3.31	
139	豊原通	上白身原人見村付近3142-1	118 住居跡	余生、古糸	中野市教育委員会	95' 10. 20~	11.20	
140	金刀通	上白身原人見村付近3142-1	794 住居跡	中庄	甲府市教育委員会	95' 2.27		
141	十ノ瀬通	甲府市山見山3丁目282-827 1	2628 敷地	古築	中野市教育委員会	96' 1.10~	1.20	
142	米原通	甲府市山見山1山見、水見、1利原	2945 住居跡	古築	中野市教育委員会	95' 11. 21~	12. 4	
143	谷根通	北野治原上野原町人見4-1久保6051-6053-6072-1	1000 住居跡	繩文	御園町教育委員会	96' 3.25~	3.31	
144	竹林通	鳩山前1片岸地1-165他	100 住居跡	古糸、平安	丹波川町教育委員会	96' 2. ~56' 3		
145	出口通	北野治原上野原町1-155他	300 住居跡、敷石地	繩文、平安	守谷市文化文物研究所	95' 10. 1~56' 2.28		
146	人們1通	北野治原上野原町1-155他	600 住居跡	繩文	守谷市文化文物研究所	95' 11. 1~56' 2.28		
147	合川通	北野治原上野原町1-155他	1182 住居跡	繩文、五世	守谷市文化文物研究所	95' 9. 5~	12.20	
148	大坂通	北野治原上野原町人見4-1久保5587-5597-5577-1	500 住居跡	古糸、古跡	須玉町史料館さんと農業	95' 8. 28~	9.16	
149	間谷山通	北野治原上野原町人見4-1久保5587-5597-1他	800 住居跡	古糸、古跡	須玉町史料館さんと農業	95' 8. 28~	9.16	
150	和田通	北野治原上野原町人見4-1久保5577-1他	500 住居跡	古糸、古跡	須玉町史料館さんと農業	95' 8. 28~	9.16	



年報 12

印刷日 平成8年3月25日

発行日 平成8年3月31日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

山梨県東八代郡中道町下曾根923

TEL 0552-66-3881・0552-66-3016

FAX 0552-66-3882

印刷所 株式会社 少国民社

TEL 0552-26-2125

